

学習心理学研究 (HCH05)

通年

Research on Learning Psychology

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	23～19 CH
単位数	4.0単位
担当教員	唐川千秋

授業の概要

人間のこころの営みや知的活動を理解する1つの方向は、高次精神活動である問題解決の研究であり、もう1つは、もっとも基本的な機能である学習・認知についてである。この講義では、何かを知るといった情報獲得、必要な情報を覚えるという記憶機能に焦点を当て、理論的枠組み及び近接領域からの影響により大きな転換点を迎えている認知科学の今後の展開について、どのような論争の経緯があったのかを踏まえつつ理解を深めることを目的とする。

到達目標

認知科学に関する最近の諸トピックスを、理論的背景も含めて正確に理解する。

評価方法

課題レポート2編および口頭試問により評価する。評価は、レポート80%、口頭試問20%の重みで判定する。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

参考図書については、入手しにくいもの、高額なものもあるので、必ずしも限定しない。ただし、他の図書館等で学習する場合、大学院レベルの内容を満たすものとするので、選定にあたっては予め相談すること。

授業計画

【レポート課題】

教科書を通読した後、2章分を選択し、引用文献等にあたりながら、それぞれについて4,000字以上のレポートを提出しすること。（合計2編のレポート）

なお、レポート作成にあたっては、

- （1）選択したテーマと日常経験との関連、
- （2）テーマが研究されるようになった背景・意義
- （3）今後の課題

の観点を踏まえて考察を加えること。

【主な参考図書】

- 1.箱田裕司・都築肇史・川畑秀明・萩原滋（著）2010 認知心理学 有斐閣 ISBN-13: 978-4641053748
- 2.松尾太加志（編）2018 認知と思考の心理学 サイエンス社 ISBN-13: 978-4781914237
- 3.道又爾・北崎充晃・大久保街亜・今井久登・山川恵子・黒沢学 2011 認知心理学—知のアーキテクチャを探る（新版）有斐閣 ISBN-13: 978-4641124530
- 4.鈴木宏昭 2016 教養としての認知科学 東京大学出版会 ISBN-13: 978-4130121101
- 5.高野陽太郎（編）1995 認知心理学〈2〉記憶 東京大学出版会 ISBN-13: 978-4130151023
- 6.大津由紀雄（編）1995 言語（認知心理学）東京大学出版会 ISBN-13: 978-4130151030
- 7.市川伸一（編）1996 認知心理学〈4〉思考 東京大学出版会 ISBN-13: 978-4130151047
- 8.日本認知科学会（編）認知科学モノグラフ 全12巻

授業外学習

予習：教科書の該当ページを読んで概略をつかむ。

復習：引用されている文献にあたり、研究の理論的背景、研究法、今後の課題を理解する。

教科書

記憶研究の最前線|太田信夫・多鹿秀継|北大路書房|978-4-7628-2166-0

参考書

上記以外のものについては適宜紹介する

備考

学習心理学演習 (HCH06)

通年

Seminar in Learning Psychology

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～19 CH
単位数	2.0単位
担当教員	唐川千秋

授業の概要

学習心理学は、記憶、思考・言語等の認知過程について理論構築を行うだけでなく、これまで教授・学習、学習意欲、学習支援等の実践にも深く関わってきた。この演習では、上記を踏まえ、創造性の発現にどのように認知過程がかかわるかを扱い、より広範な視座をもつことを目的とする。

到達目標

(1) 認知科学に関する最近の諸トピックスを、理論的背景も含めて正確に理解する。

評価方法

課題レポート2編（到達目標1）およびスクーリングでの質疑応答および科目修了試験（到達目標1）により評価する。評価は、レポート60%、スクーリングでの質疑応答および科目修了試験40%の重みで判定する。

注意事項

参考図書については、入手しにくいもの、高額なものもあるので、必ずしも限定しない。ただし、他の図書館等で学習する場合、大学院レベルの内容を満たすものとするので、選定にあたっては予め相談すること。

授業計画

【レポート課題】

1. いずれか1つの章を選び、A4版に2,000字以上に要約してください。（受講者が多い場合には、章を割り振ることがあります。）
2. 認知倫理をどのように活用・応用することで問題解決および創造的思考に役立つと考えられるか、2,000字以上で論述してください。

【主な参考文献】

1. 箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋（著）2010 認知心理学 有斐閣 ISBN-13: 978-4641053748
2. 仲真紀子 2005 認知心理学の新しいかたち 誠信書房 ISBN-13: 978-4414301564
3. 箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋（著）2010 認知心理学 有斐閣 ISBN-13: 978-4641053748
4. 松尾太加志（編）2018 認知と思考の心理学 サイエンス社 ISBN-13: 978-4781914237
5. 道又爾・北崎充晃・大久保街亜・今井久登・山川恵子・黒沢学 2011 認知心理学—知のアーキテクチャを探る（新版）有斐閣 ISBN-13: 978-4641124530
6. 鈴木宏昭 2016 教養としての認知科学 東京大学出版会 ISBN-13: 978-4130121101
7. 高野陽太郎（編）1995 認知心理学〈2〉記憶 東京大学出版会 ISBN-13: 978-4130151023
6. 大津由紀雄（編）1995 言語（認知心理学）東京大学出版会 ISBN-13: 978-4130151030
8. 市川伸一（編）1996 認知心理学〈4〉思考 東京大学出版会 ISBN-13: 978-4130151047
9. 日本認知科学会（編）認知科学モノグラフ 全12巻

【スクーリング時における指導内容】

各受講者からの要約レポート・質問をつき合わせて討議することによって、多様な視点から内容に関する理解を深める。また、スクーリング以降の学習の基礎となる知見について講義を行う。

授業外学習

引用されている文献にあたり、研究の理論的背景、研究法、今後の課題を理解する。

教科書

Michael W. Eysenck, & Mark T. Keane (著) Cognitive Psychology: A Student's Handbook (8th ed. (Paper ed.)) 出版社: Psychology Press
ISBN-10 : 1138482234
ISBN-13 : 978-1138482234

参考書

乾敏郎・吉川佐紀子・川口潤（編）よくわかる認知科学 ミネルヴァ書房 978-4-623-05534-0

健康運動科学の研究 (HCH13)

通年

Research on the health and exercise physiology

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	23～20 CH
単位数	4.0単位
担当教員	枝松千尋

授業の概要

本講義は、生涯を通じて健康に生活するための知識を身につけ、科学的興味をもって理解を深化することを目的とする。特に運動を中心とした生活習慣が健康にどのように寄与するかを理解する。健康科学分野における高度な専門知識と技能を身につけ、健康生活に関する様々な問題点を、学術的な立場に立って解決できる人材の育成を目指す。

到達目標

健康に関して幅広い知識を身につけ実践できる。

評価方法

2回のレポート(70%)及び口頭試問(30%)でもって総合的に評価する。
上記の評価方法により、到達目標の達成度を総合的に評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

1. テキストに引用された学術論文等を積極的に読み、理解を深化させること。
2. 特にインターネットでの情報はその信憑性を十分に吟味すること。
3. レポートに引用した文献は必ず明示すること。
4. レポート課題はメールによって指示をする。

授業計画

1. 文明と生活習慣・肥満
2. 生活習慣と炎症
3. 生活習慣と腸内環境
4. 生活習慣と睡眠
5. 運動とストレス・健康

上記項目に関するレポート課題を前期に1つ(運動とストレス・健康について)、後期に1つ(テキスト上の任意のテーマ)を提示する。自ら調べ、指定された課題についてのレポート(4000字)を作成する。随時メールでの質疑応答を行う。

授業外学習

テキストに引用された学術論文を積極的に読むこと。

教科書

「最高の体調~進化医学のアプローチで、過去最高のコンディションを実現する方法~」クロスメディア・パブリッシング,2018年,978-4295402121

参考書

David A. Raichlen et al. Physical activity patterns and biomarkers of cardiovascular disease risk in hunter-gatherers. Am J Hum Biol. 29(2), 2017

Northey JM et al. Exercise interventions for cognitive function in adults older than 50: a systematic review with meta-analysis. Br J Sports Med. 52(3), 154-160, 2018

von Haaren B et al. Does a 20-week aerobic exercise training programme increase our capabilities to buffer real-life stressors? A randomized, controlled trial using ambulatory assessment. Eur J Appl Physiol. 116(2), 383-94, 2016

備考

生活習慣病予防の研究 (HCH15)

通年

Research on lifestyle-related disease prevention

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	23～19 CH
単位数	4.0単位
担当教員	吉田悦男

授業の概要

生活習慣病の概念、成因、発症機序、症状、治療法について理解する。さらに危険因子の関連機序を検討し、生活習慣病の発症予防、進行抑制の可能性について理解を深め、研究方法などを学ぶことを目的とする。

到達目標

生活習慣病に関して幅広い知識を身につけ他者に詳しく説明できる。

評価方法

書物、文献を検索し、レポートを提出し、最後に口頭試問を行い理解の程度を判定する。

レポート 60点、口頭試問 40点とする。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

自ら資料を探し出す能力も高めてもらいたい。レポートに引用した文献は必ず明示すること。インターネットでの情報はその信憑性を十分に吟味し、安易に引用しないこと。

授業計画

- 1.生活習慣病
- 2.メタボリックシンドローム
- 3.生活習慣病の危険因子と対策
- 4.運動、食餌療法による発症抑制
- 5.健康診断基準値の適否

上記項目に関する課題を前期に1つ、後期に1つ提示するので、それに応じてレポート（4000字以上）を作成する。これらはその時々最新のトピックに応じて変遷するので固定されたものではない。

授業外学習

生活習慣病について学術雑誌やニュースから常に最新の知見や研究動向を把握したうえで、指定された課題についての2つのレポートを作成する。随時メールでの質疑応答を行う。

教科書

特に指定しない。

参考書

必要に応じて提示する。

備考

健康と食生活の研究 (HCH19)

通年

Research on Health and Eating habits

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	23～19CH
単位数	4.0単位
担当教員	👤 矢田貝智恵子

授業の概要

運動と休養とともに健康の概念を考える上でなくてはならない食事の重要性について、食環境・食形態・疾病構造・保健医療福祉制度の変化といった「食」を取り巻く諸問題とともに学び、食生活や生活習慣がもたらす健康との関連などを理解する。

健康分野の高度な専門知識を身につけ、健康生活に関する様々な問題点を、学術的な立場に立って解決できる人材の育成を目指す。

到達目標

- 1 食生活や生活習慣がもたらす健康との関連などを理解し、説明できる。
- 2 「食」を取り巻く諸問題を自らの問題としてとらえ、自分に合った食生活や生活習慣を実践することができる。

評価方法

レポート70%（到達目標1、2）、口頭試問30%（到達目標1）により評価する。

注意事項

- ・栄養学の基礎知識が必要。
- ・定期的に進捗状況を報告すること。

授業計画

【レポート課題】

下記項目から関心のあるテーマを前期・後期に各1つ選択し、1テーマ4,000字程度のレポートを作成する。

1. 環境と食生活
2. 健康と環境
3. 各種疾患と食品の機能性
4. 食習慣の展望

授業外学習

関連する情報を得るため、学内外の図書館などを利用し、文献収集を行うなど、課題レポート作成に取り組む。

教科書

「食品機能学への招待－生活習慣病予防と機能性食品－」・須見洋行、矢田貝智恵子・三共出版・ISBN978-4-7827-0685-5

参考書

適宜紹介する。

備考

特別研究（HCH27）

通年

Special Research

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～19 CH
単位数	6.0単位
担当教員	唐川千秋

授業の概要

各自の研究課題の実施プランを具体化し、より質の高い修士論文作成を行う。

【研究倫理教育】研究不正防止の観点から研究倫理（研究活動における不正行為（捏造、改ざん、盗用）、研究データの管理など）に関する内容を含む。

到達目標

- (1) 研究課題を自分で見つけ出し、それに科学的にアプローチできる能力を身につける。
- (2) 研究成果を適切な用語で、専門性が高く、かつ分かりやすく論旨展開して公表できる。

評価方法

提出された修士論文(50%)（到達目標1・2）および口頭発表時の試問への応答(50%)（到達目標2）に基づいて評価する。

注意事項

1年次9月下旬・2月中旬、2年次9月下旬に中間発表を行うので、早めに準備する。

授業計画

1年次

4月 オリエンテーション（スクーリング）

- テーマの明確化、先行研究の精読
- 先行研究間の関連付け
- 論点の明確化

8月 具体的研究計画の検討（スクーリング）

- 第一実験・調査手続きおよび材料の具体化・修正
- 実験・調査の実施
- 結果の整理、考察

9月 中間報告会（1回目）

2月 第二実験・調査の具体的研究の検討（スクーリング）

- 手続きおよび材料の具体化・修正
- 実験・調査の実施
- 結果の整理、考察
- 中間報告会（2回目）

2年次

8月 中間報告会（スクーリング）

（場合により追加実験・調査）

12月 初稿提出

- コメント（スクーリング）
- 修正稿提出

1月 論文提出

2月 口頭試問（スクーリング）

※その他進捗状況に応じて適宜スクーリングないし通信指導を行う。

授業外学習

- ・既読の文献の内容を整理する。
- ・実験・調査を行い、それらを適切なかたちでまとめる。

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて文献を提示する。

備考

特別研究（HCH32）

通年

Special Research

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～19 CH
単位数	6.0単位
担当教員	吉田悦男

授業の概要

生活習慣病と高齢者疾患をキーワードとした研究を行い修士論文としてまとめる。

到達目標

科学的論理的思考法を覚え、科学論文として専門ジャーナルに投稿できる能力を身につける。

評価方法

研究過程における毎月の進捗状況報告レポート（50%）および最終修士論文の発表内容（50%）により評価する。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

9月、2月に中間発表を行うので早めに準備すること。

授業計画

1年次

4月 オリエンテーション（スクーリング）

研究テーマの決定：興味ある分野からの研究案の提出、先行研究の有無、新規研究としての独創性、研究の妥当性、研究場所の確認、研究資金の確認の後決定する。

研究計画立案：期間内に終わるよう無理のない範囲での研究とする。目的に沿った合理的な実験手段であり、倫理的にも問題ないことを確認する。

どのような結果が想定されるのか、想定外の結果にどう対処するかまで考慮しておく。

8月 具体的研究計画の検討（スクーリング）

9月 中間発表

実験研究：綿密に無理なく計画に沿って行う。

2月 中間発表（スクーリング）

実験結果の整理、評価：適切な統計処理を行い、簡潔明瞭な表・グラフを作成する。

実験結果の考察：関連分野の論文を読破し、自らの研究結果の位置づけを把握する。

2年次

8月 スクーリング

9月 中間発表

論文作成：推敲を重ね、教員の指導を受けつつ完成させる。

1月 論文提出、抄録作成

修士論文審査会に向けた発表準備（スクーリング）

2月 修士論文発表会（スクーリング）

授業外学習

授業以外に文献検索などの自己学習を積極的にすすめること。メールでの質疑応答は随時受け付ける。

教科書

教科書使用しない。

参考書

参考文献は、適宜案内する。

備考

特別研究 (HCH34)

通年

Special Research

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～19CH
単位数	6.0単位
担当教員	大川元久

授業の概要

本講座は医学教育や研究に携わる者としての基本的な考え方や方法論をもとに研究を実践されるものである。その特徴は救急・災害医療を病院前救急医療分野という立場でその医学的教育や救急・災害医療体制を医療危機管理学的視点で科学的根拠に基づいて実践していくための研究をテーマとして教育・指導していくものである。対象は医師、看護師、救急救命士等の救急医療に携わる者とする。個別指導研究において研究を含む『教える技術』について理解と実践にその習得に重きを置く。すなわち『教えることを学ぶ』ことである。ついで、医療教育システムのインストラクショナルデザインについて学び応用出来るようにする。講義はeラーニングなどを活用し、各個人が持つ能力を最大限に引き出し社会に貢献できる人材を養成する。講義の前提は多くの人の尊い命のことを考えた生命倫理に基づくことであることをしっかり認識しておいて下さい。

到達目標

救急・災害医学をチーム医療を行うスタッフの一員として研究活動を行い、学術的プレゼンテーションができる。

評価方法

修士論文作成における修士論文の中間発表20%、研究過程での質疑応答20%、修士論文60%により成績を評価し、総合点60点以上で合格とする。

注意事項

1. 修士論文の作成に向けて、定期的に進捗状況を報告する。
2. 2年次 8月に修士論文中間発表会を実施する。
3. 修士論文作成上、必要なことについてはメール等で質疑応答を行う。

授業計画

1年次スクーリング（3回）

- ・ 研究論文作成に必要な基礎的知識について指導
- ・ 研究文献の収集及び論文構成等の指導
- ・ 準備した資料を基に、研究テーマ決定

スクーリングまでの間はオンライン面接(Google ClassroomやLINEまたはメール)等による個別指導

2年次スクーリング（3回：個別指導になります）

- ・ 修士論文のテーマの見直し後に決定
- ・ 修士論文の中間発表
- ・ 修士論文の完成作業

スクーリングまでの間はオンライン面接(Google ClassroomやLINEまたはメール)等による個別指導

授業外学習

救命救急の医療知識・制度法律に関する成書・論文等から研究に必要な情報を読み込み、分析するデータの収集を行う。

教科書

上手な教え方の教科書～入門インストラクショナルデザイン 向後千春 技術評論社 ISBN: 978-4774174617

参考書

インストラクショナルデザインとテクノロジー：教える技術の動向と課題・鈴木克明 監修翻訳・北大路書房・978-4-7628-2818-8

インストラクショナルデザイン―教師のためのルールブック 島宗 理 著/米田出版 (2004/11)

その他を授業中に紹介する。

備考

年次	1年
対象	23～22 CH
単位数	4.0単位
担当教員	徳田美智

授業の概要

私たちを取り巻くリスクは、多様化・高度化・複雑化している。これまで経営リスクは、損失の発生可能性を中心に議論されていたが、現在は、企業目標に影響を与える可能性として、マイナスの影響とプラスの影響を検討する必要性が議論されるようになった。本講義では、多様化するリスクに対する対策と組織価値向上のための考え方や手法について修得する。

到達目標

1. リスクマネジメントについて、概念・理論を理解する
2. リスクマネジメント・プロセスとその特徴について、理解する
3. 効果的なリスクマネジメント導入とその課題について、理解する

評価方法

授業計画に示した2つのレポートの提出を求め、レポート75%（到達目標1、2を評価）、口頭試問25%（到達目標3を評価）で総合的に評価する。

注意事項

リスクマネジメントの基礎知識をもっていることがのぞましい。

授業計画

【レポート課題1】

リスクマネジメント・プロセスとは何か、プロセス全体のねらいや各段階で行うべき作業を整理して、4000字以上でまとめて下さい

<参考資料>

- ・亀井利明・亀井克之（2009）「リスクマネジメント総論（増補版）」同文館出版978-449537222
 - ・奈良由美子（2017）「改訂版生活リスクマネジメントー安全・安心を表現する主体としてー」一般財団法人放送大学教育振興会 978-4595140822
- 関連するニュース、Webサイト など

【レポート課題2】

企業が必要とされるリスクマネジメントの概要と、導入における課題について、4000字以上でまとめて下さい。

<参考資料>

- ・上田和勇（2011）「企業価値創造型リスクマネジメント[第4版-その概念と事例-]」白桃書房978-4561951100
 - ・三菱総合研究所・実践的リスクマネジメント研究会（2010）「リスクマネジメントの実践ガイドーISO31000の組織経営への取組みー」日本規格協会 978-4-542-70163-2
- 関連するニュース、Webサイト

授業外学習

1. 新聞やテレビ等のニュースで取り上げられている経営に関するリスクとその対応について常に興味を持ち、切り抜きをノートにまとめるなどの方法で十分に自習しておくこと。
2. 新聞やテレビのニュースで取り上げられている経営に関するリスクが、どのようにマネジメントされているのか、そのプロセスと課題について理解する。

教科書

それぞれ関心のある分野に応じて、相談の上、適宜紹介する。

参考書

上記以外の参考書、参考文献については、それぞれ関心のある分野に応じて、相談の上、適宜紹介する。

備考

特になし。

経営リスク演習 (HCH38)

通年

Seminar in Management Risk

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～22 CH
単位数	2.0単位
担当教員	徳田美智

授業の概要

企業や非営利組織などあらゆる組織は、不確実な状況の中で、複雑化・高度化するリスクに対し多様な意思決定を下さなければならない。この講義では、企業など組織が危機の対処に失敗した事例を取り上げ、その対処についてポイントを整理し、リスク対策の手法について考え、レポートにまとめる。

到達目標

1. 事例研究を通して、多様なリスクに対するマネジメントの手法について理解し、説明できる
2. 複雑化、高度化するリスクの概要を把握し、適切な対策が立案できる

評価方法

課題レポートおよびスクーリング時における質疑応答により評価する。評価は、レポート80%（到達目標1を評価）、質疑応答20%（到達目標2を評価）で総合的に判定する。

注意事項

「経営リスク研究」を合わせて受講していることがのぞましい。

授業計画

【レポート課題1】

安全管理に関するリスクの事例（ケース4：鉄道の大規模な脱線転覆事故）において、1) 事故の報告がすばやく正確に伝えられない要因は何か、2) 安全と効率という相反する目的をどのように調和させるのがよいか、2000字以上にまとめて下さい。

<参考文献>

- ・危機管理研究会【編著】（2012）「ケースブックあなたの組織を守る危機管理」株式会社ぎょうせい978-4324092583
- ・柳瀬典由、石坂元一、山崎尚志（2018）「リスクマネジメント」中央経済社978-4502256912

関連するニュース、Webサイト

【レポート課題2】

経営に関するリスクの事例（ケース8：地震発生後の事業継続に向けた危機管理）を参考に、災害による拠点の喪失を想定し、具体的にどのような対策を検討する必要があるか、2000字以上にまとめて下さい。

<参考文献>

- ・危機管理研究会【編著】（2012）「ケースブックあなたの組織を守る危機管理」株式会社ぎょうせい978-4324092583
- ・柳瀬典由、石坂元一、山崎尚志（2018）「リスクマネジメント」中央経済社978-4502256912
- ・昆 正和(2012)「実践BCP策定マニュアル」オーム社 978-4274068928

関連するニュース、Webサイト

【スクーリング時における指導内容】

各受講者からの要約レポート・質問をつき合わせて討議することによって、多様な視点から内容に関する理解を深める。また、スクーリング以降の学習の基礎となる知見について講義を行う。

授業外学習

紹介する参考図書・文献にあたり、企業や公的組織が行うリスクマネジメントについて理解する。

教科書

それぞれ関心のある分野に応じて、相談の上、適宜紹介する。

参考書

上記以外の参考書、参考文献については、それぞれ関心のある分野に応じて、相談の上、適宜紹介する。

備考

特になし

情報リスク研究 (HCH39)

通年

Research on Information Risk

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	23～22CH
単位数	4.0単位
担当教員	村山公保

授業の概要

情報リスクを考える上での基礎となる情報セキュリティとその安全性について幅広い視点から学ぶ。具体的には暗号技術、認証、バイOMETリック、サイバーセキュリティ、情報セキュリティマネジメントシステム、デジタルフォレンジック、法と倫理等について、発表と討論を通して学ぶ。

到達目標

1. 情報セキュリティについて幅広い観点から理解し、情報リスクについて他人と議論するための土台を構築する。

評価方法

・課題レポートおよびスクーリング時における口頭試問により評価する。評価は、レポート70%(到達目標の1を評価)、口頭試問30%(到達目標の1を評価)の重みで判定する。

注意事項

- ・学修の進め方がわからない場合には、メール等で問い合わせること。
- ・教科書の内容を理解することを目的にした課題になっているが、さらに踏み込んで、インターネットの記事や新聞、ニュース等で話題になっている事項について関連付けながらレポートをまとめると、より学びが深まり自身の成長につながるだろう。

授業計画

レポート課題1

教科書の1章～7章を読み、情報セキュリティの概要、暗号技術(共通鍵暗号、公開鍵暗号、デジタル署名とPKI、セキュア実装、情報ハイディング技術、バイOMETリックについて合計4000字以上でまとめなさい。

レポート課題2

教科書の8章～14章を読み、サイバーセキュリティ技術、情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)および情報セキュリティ監査、CC(ISO/IEC 15408)と情報システムセキュリティ対策の設計・実装、個人情報保護技術、デジタルフォレンジック技法、IoTセキュリティ、法と倫理について合計4000字以上でまとめなさい。

授業外学習

- ・この講義は、受講生との議論を中心に授業を進めるため、事前に十分な時間をかけて予習を行い、学んだことを資料にまとめてくること。
- ・日頃から情報セキュリティや情報リスクについて意識するようにする。

教科書

瀬戸洋一、佐藤尚宜、越前功、中田亮太郎、織茂昌之、長谷川久美、渡辺慎太郎、小檜山智久、村上康二郎著、「改訂版 情報セキュリティ概論」、日本工業出版、2019、978-4-8190-3103-5

参考書

井上直也、村山公保、竹下隆史、荒井透、苅田幸雄「マスタリングTCP/IP 入門編 第6版」、オーム社、2019、978-4-274-22447-8

備考

なし

情報リスク演習 (HCH40)

通年

Seminar in Information Risk

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～22CH
単位数	2.0単位
担当教員	村山公保

授業の概要

情報リスクを考える上での経験値を高めるため、コンピュータシステムの構築と設定を行い、ペネトレーションを行う。具体的には仮想環境上にWindows、Linux(KaliLinux)環境を構築し、コンピュータシステムの機密性、完全性、可用性を脅かす行為について、実機を使った演習を行いながら、理解を深める。

到達目標

1. コンピュータシステム上に演習環境を構築できる。
2. 各種の攻撃手法について理解を深める。

評価方法

・課題レポートおよびスクーリング時における口頭試問により評価する。評価は、レポート70%(到達目標の1、2を評価)、口頭試問30%(到達目標の2を評価)の重みで判定する。

注意事項

- ・各自で仮想環境(VirtualBox等)を構築し、演習を行うこと。
- ・スクーリング時には各自が作成した仮想環境が動作するパソコンを持参するか、それができない場合には仮想環境をUSBメモリ等にコピーして持参すること。

授業計画

レポート課題1

教科書の第1部(第1章～第3章)を読み、仮想環境によるシステムの構築とホストOSの基本設定を行い、実施した内容で得た知見について計2000字以上のレポートにまとめなさい。

レポート課題2

教科書の第2部(第4章～第8章)を読み、自分で構築した環境システムに対してハッキングを体験し、得た知見について合計2000字以上でまとめなさい。

【スクーリング時の指導内容】

(前期6コマ、後期6コマ合計12コマ)

各自が仮想環境上に構築した実験環境を使って作業をしながら解説を行う。トラブル等、うまくいかなかった部分がある場合にはトラブルシューティングやサポートを行う。試した結果をもとに、各種の攻撃手法の意味や対策について議論する。さらに、スクーリング以降の学習の基礎となる知見について講義を行う。

授業外学習

- ・実験環境を構築し、試してくる。
- ・パソコンの操作などでつまづいた場合には、インターネットで検索して試しながら探り当てるようにする。

教科書

IPUSIRON著、「ハッキング・ラボのつくりかた 仮想環境におけるハッカー体験学習」、翔泳社、978-4798155302

参考書

井上直也、村山公保、竹下隆史、荒井透、菊田幸雄「マスタリングTCP/IP 入門編 第6版」、オーム社、2019、978-4-274-22447-8

備考

特になし

健康運動科学演習（HCH41）

通年

Seminar in Health and Exercise Physiology

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～22CH
単位数	2.0単位
担当教員	枝松千尋

授業の概要

本講義は、健康を考える上で基礎になる「身体状況及び能力」を測定する実験機器の操作及び評価基準について学習するものである。さらに運動時の身体の反応について運動生理学・バイオメカニクスに基づく実験を行う。健康科学分野における高度な専門知識と技能を身につけ、健康生活に関する様々な問題点を、学術的な立場に立って解決できる人材の育成を目指す。

到達目標

1. 実験機器の測定原理、操作方法、データの読み方を理解する。
2. 実験計画の立案、実施、評価、考察ができる。

評価方法

課題レポート（50%：到達目標2）、スクーリング期間中の機器操作（25%：到達目標1）及びディスカッション（25%：到達目標1・2）により総合的に判定する。

注意事項

「健康運動科学の研究」を履修していること。

授業計画

運動生理学・バイオメカニクスに関する分野の先行研究を調査し、関心のあるテーマを選ぶ（レポート1）。その後、スクーリングにおいて実験・解析を行う。得られたデータを図表にまとめ、最終的に考察を加えてレポート作成（レポート2）を行う。

【レポート課題】

レポート1：関心があり本学で実験が行えるテーマをメールで相談しながら設定し、そのテーマに関する参考文献や先行研究をA4版に2,000字以上に要約してください。

レポート2：レポート1で設定したテーマに関する実験・解析を行い、得られた解析データを図表にまとめるとともに2,000-4000字程度で論述してください。

【主な参考文献】

1. 最高の体調～進化医学のアプローチで、過去最高のコンディションを実現する方法～ クロスメディア・パブリッシング
2. スポーツバイオメカニクス20講 朝倉書店
3. バイオメカニクス-人体運動の力学と制御 原著第4版 ラウンドフラット

【スクーリング時における指導内容】

筋電図計・床反力計・高速度ビデオカメラ・体組成計・骨密度測定器などを使用し、テーマに合わせた測定を行うとともに解析方法に関する理解を深める。その後、最終レポートに向けた方向性を討議し多様な視点から内容に関する理解を深める。

授業外学習

実験に取り組むにあたり、先行研究を調査しておくこと。

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて提示する。

備考

生活習慣病予防演習（HCH42）

通年

Seminar in Lifestyle-related Diseases Prevention

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～22 CH
単位数	2.0単位
担当教員	吉田悦男

授業の概要

生活習慣病予防には多岐にわたるアプローチが存在する。それぞれのアプローチにおける考え方、研究手法を知り、いかなる知見が得られているかを理解することを目的とする。さらに生活習慣病の成因、発症機序を理解したうえで、理論に基づく効果的予防法を考案し、自らその方法を実践し、その過程、効果を検証する。

到達目標

生活習慣病の予防に関して広範な知識を身につけ他者に説明できる。

評価方法

レポートが課題に沿っているか、独創性がみられるか、関連知識の正確さを総合的に評価する。レポート（50%）、口頭試問（50%）を基準とする。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

自ら資料を探し出す能力も高めてもらいたい。

授業計画

下記に関する課題を与えるので、最新情報を自ら検索、入手し読解、吟味しレポート（2000～4000文字）を作成する。課題は最新のトピックスに応じて変遷するので固定されたものではない。レポート作成後に口頭試問を行い内容の理解の程度、周辺知識の正確さを問う。

- 生活習慣病の成因
- 生活習慣病の発症機序
- 生活習慣病予防法の現状と問題点
- 生活習慣病の新たな理論的予防法の考案

授業外学習

自ら生活習慣病予防に関する新知見や研究動向を国際英文ジャーナルから選択しレポート作成するための準備が重要となる。

教科書

使用しない。

参考書

参考文献は適宜案内する。

備考

救急・災害医療の研究 (HCH43)

通年

Research on Disaster and Emergency Medicine

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	23～22CH
単位数	4.0単位
担当教員	大川元久

授業の概要

本講座は医学教育や研究に携わる者としての基本的な考え方や方法論をもとに研究を実践されるものである。その特徴は救急・災害医療を病院前救急医療分野という立場でその医学的教育や救急・災害医療体制を医療危機管理学的視点で科学的根拠に基づいて実践していくための研究をテーマとして教育・指導していくものである。対象は医師、看護師、救急救命士等の救急医療に携わる者とする。個別指導研究において研究を含む『教える技術』について理解と実践にその習得に重きを置く。すなわち『教えることを学ぶ』ことである。ついで、医療教育システムのインストラクショナルデザインについて学び応用出来るようにする。講義はeラーニングなどを活用し、各個人が持つ能力を最大限に引き出し社会に貢献できる人材を養成する。講義の前提は多くの人の尊い命のことを考えた生命倫理に基づくことであることをしっかり認識しておいて下さい。

到達目標

救急・災害医学をチーム医療を行うスタッフの一員として、

1. 学術的プレゼンテーションの技術を学ぶ。
2. 科学的な学問としての教え方を身に着ける。

評価方法

研究発表成果もしくは論文(60%; 到達目標1)、レポート(20%; 到達目標1,2)、口頭試問(20%; 到達目標2)

注意事項

研究発表は当該学会発表もしくは論文完成に重きを置いて評価する。

授業計画

救急・災害医療を教育学に共通する要素を研究対象とする医療教育学の視点から、救急・災害医療について研究する。教科書「インストラクショナルデザインとテクノロジー」からアウトラインとして学習項目をレポート課題(2課題 各4000字以上)として提出する。

なお、レポート作成にあたっては、

- (1) テーマが研究されるようになった背景・意義、
- (2) 選択したテーマと医療現場との関連、
- (3) 今後の課題

の観点を踏まえて考察を加えること。

なお『スクーリング時における指導内容』は各受講者からの要約レポート・質問をつき合わせて討議することによって、多様な視点から内容に関する理解を深める。また、スクーリング以降の学習の基礎となる知見について講義を行う。

授業外学習

1. 自ら計画を立て救急医療系の標準教育プログラムであるBLS、PALS/ISLS、JPTEC/JATEC等に積極的に参加する。
2. 上記医療教育プログラムに参加した後に内容をまとめるように努める。
3. 医療現場の実態を調査し救急医療の現状をまとめて全国レベルの学会・研究会に積極的に参加してもらう(参加費自己負担)。

教科書

インストラクショナルデザイン—教師のためのルールブック 島宗 理 著/米田出版(2004/11)

その他を授業中に紹介する。

参考書

インストラクショナルデザインとテクノロジー: 教える技術の動向と課題・鈴木克明 監修翻訳・北大路書房・978-4-7628-2818-8

備考

救急・災害医療演習 (HCH44)

通年

Seminar in Disaster and Emergency Medicine

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～22 CH
単位数	2.0単位
担当教員	大川元久

授業の概要

救急・災害医療において、病院前救急医療分野という立場でその医学的教育や救急・災害医療体制を医療危機管理学的視点で科学的根拠に基づいて実践していくための研究をテーマとして教育・指導していく。対象は医師、看護師、救急救命士等の救急医療に携わる者とする。個別指導研究(20項目)において研究の仮説の立て方から研究デザインを考案し、具体的な論文作成方法の基本を学ぶ。また研究の基礎となる統計分析法の理解と実践にその習得に重きを置く。特にインストラクショナルデザインを基とした医療教授法を身に着ける。特に、その研究テーマを選定した動機・研究対象の背景・現在の課題を明確にします。このレポートから学習者の到達目標と現状とのギャップを埋めるために必要な項目・技術についてスクーリングを実施していきます。

到達目標

救急・災害医学をチーム医療を行うスタッフの一員として、

1. 学術的プレゼンテーションの技術を学ぶ。
2. 科学的な学問としての教え方を身に着ける。

評価方法

研究発表成果もしくは論文(60%; 到達目標1)、レポート(20%; 到達目標1,2)、口頭試問(20%; 到達目標2)

注意事項

研究発表は当該学会発表もしくは論文完成に重きをおいて評価する。

授業計画

救急・災害医療を教育学に共通する要素を研究対象とする医療教育学の視点から、救急・災害医療について研究する。教科書「上手な教え方の教科書～入門インストラクショナルデザイン」からアウトラインとして学習項目をレポート課題(2課題 各2000字以上)として提出する。

なお、レポート作成にあたっては、教科書の対象となる章を選び、提示参考書を活用して

- (1) テーマが研究されるようになった背景・意義、
- (2) 選択したテーマと医療現場との関連、
- (3) 今後の課題

の観点を踏まえて考察を加えること。

『スクーリング時における指導内容』

受講者からの要約レポート・質問をつき合わせて討議することによって、多様な視点から内容に関する理解を深める。また、スクーリング以降の学習の基礎となる知見について講義を行う。

授業外学習

1. 自ら計画を立て救急医療系の標準教育プログラムであるBLS、ACLS(ICLS)、PALS/ISLS、JPTEC/JATEC等に積極的に参加する。
2. 上記標準教育プログラムに参加したのちに内容をまとめるように努める。
3. 各種災害訓練やメディカル・ラリーに参加する。
4. 全国レベルの学会・研究会に積極的に参加してもらう(参加費自己負担)。

教科書

あなたのプレゼン誰も聞いてませんよ!—シンプルに伝える魔法のテクニック 渡部欣忍著 南江堂 (2014/4/1)ISBN:978-4-524-26127-7

上手な教え方の教科書～入門インストラクショナルデザイン 向後千春 技術評論社 ISBN: 978-4774174617

参考書

インストラクショナルデザインとテクノロジー: 教える技術の動向と課題 鈴木 克明 (監修, 翻訳) 北大路書房(2013/9/28)ISBN:978-4762828188

その他、授業中に紹介する。

備考

環境と健康生活の研究 (HCH47)

通年

Research on Public Health

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	23～21 CH
単位数	4.0単位
担当教員	湯川尚一郎

授業の概要

人間と動物の健康生活は、自然環境（空気、水、土壌等）や生活環境（水道、生活污水、ごみ、人間と動物の食生活等）および社会環境と大きく関わっている。すなわち、健康の成り立ちを生活レベルから多要因的に理解し、人間と動物の両方に関する健康生活のために考え、行動することができるように、考え方や知識を修得する。とくに重視する事項は健康事象の疫学的理解・人間と環境の相互作用の理解ならびに人間と動物が共生する衣食住の重要性の理解である。

【フィードバック】小テスト等の課題に対する講評を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】本授業では、Google Classroomを活用して双方向型授業を展開する。

到達目標

1. 健康の成り立ちを生活レベルから多要因的に理解し、人間と動物の健康生活のために考え、行動することができるように、考え方や知識および技術を理解し説明できるようになる。

評価方法

レポートの提出状況と内容70%（到達目標1を評価）と口頭試問の内容30%（到達目標1を評価）で評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

レポート作成にあたって、先行研究を十分把握した上で取り掛かること。課題で示された内容に答えるだけでなく、最新のニュースとの関連を含め自らの考え・見解・感想を含めること。

質問事項があれば、メール等で問い合わせること。

授業計画

【授業計画】

【レポート課題I】

人医療でのインシデント・アクシデントについての論文を3報以上挙げ概説したのち、具体的な対策と提言を4000字以上にまとめなさい。

<参考資料>

NLM(米国国立医学図書館:National Library of Medicine)内の、NCBI(国立生物科学情報センター:National Center for Biotechnology Information)が作成しているデータベースPubMedにアクセスし、必要な文献を調べる。必要に応じ、Google Scholarを用い論文検索を行うこと。

【レポート課題II】

医療・教育に関するイラストの効果についての論文を5報以上挙げ概説したのち、効果向上に関する具体的な提言を4000字以上にまとめなさい。

<参考資料>

NLM(米国国立医学図書館:National Library of Medicine)内の、NCBI(国立生物科学情報センター:National Center for Biotechnology Information)が作成しているデータベースPubMedにアクセスし、必要な文献を調べる。必要に応じ、Google Scholarを用い論文検索を行うこと。

授業外学習

過去の文献を探し、読むことで学びの内容を深めるようにすること。

教科書

特になし

参考書

環境白書2019（環境省）、国民衛生の動向2019/2020（厚生労働統計協会）

その他、必要に応じ紹介する

備考

特になし

環境と健康生活演習（HCH48）

通年

Seminar in Public Health

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～21 CH
単位数	2.0単位
担当教員	湯川尚一郎

授業の概要

人間と動物の健康生活は、自然環境（空気、水、土壌等）や生活環境（水道、生活污水、ごみ、人間と動物の食生活等）と大きく関わっている。すなわち、健康の成り立ちは“人間・動物と環境の相互作用”であるという理解の下、人間と動物が健康に生活していく上での阻害要因や促進要因に関して各自関心のあるテーマを取り上げる。

【フィードバック】小テスト等の課題に対する講評を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】本授業では、Google Classroomを活用して双方向型授業を展開する。

到達目標

1. 公衆衛生学に関するテーマを研究視点でみることができるようになる。

評価方法

課題レポートおよびスクーリング時における質疑応答により評価する。評価は、レポート70%（到達目標1を評価）、質疑応答30%（到達目標1を評価）の重みで判定し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

進捗状況の報告を長期にわたって怠らないこと。

主観的なデータではなく、客観的な根拠に基づくデータを引用すること。

授業計画

【レポート課題1】

1. 海外における「犬猫用フード・トリーツが原因の人へのサルモネラ属菌感染」を事例を出しながら概説し、この感染の対策と提言を2000字以上にまとめなさい。

（参考資料）

厚生労働省 動物由来感染症HP

日本獣医師会 HP

関連するWebサイト

【レポート課題2】

2. 日本における「犬猫用フード・トリーツへのサルモネラ属菌混入の実態」を論文を出しながら概説し、対策と提言を2000字以上にまとめなさい。

（参考資料）

関連するWebサイト

【スクーリング時における指導内容】

各受講者からの要約レポート・質問をつき合わせて討議することによって、多様な視点から内容に関する理解を深める。その結果、人と犬のふれあいにおける視点や公衆衛生対策を実践することを学ぶ。

授業外学習

できるだけ多くの本や論文を読み、研究の理論的背景、研究法、今後の課題を理解する。

教科書

特になし

参考書

シンプル衛生公衆衛生学（南江堂）、環境白書、国民衛生の動向

必要に応じて紹介する

備考

特になし

動物臨床生化学 (HCH53)

通年

Research on Animal Clinical Biochemistry

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	23～22CH
単位数	4.0単位
担当教員	武光浩史

授業の概要

生命活動の基本は遺伝子発現とタンパクへの翻訳で行われている。この講義では小動物の様々な疾病の診断と治療を分子生物学的なアプローチで解析、研究を行うのに必要な知識を習得する。

到達目標

分子生物学の基礎と遺伝子とタンパクに関する実験手法の概要を理解する。

評価方法

授業計画に示したレポートの提出を求め、評価はプレゼンテーション80%、質疑応答20%の重みで判定する。

注意事項

原則として課題提出の期限は厳守とする。

授業計画

レポート課題1

遺伝子に関する研究の実験を説明し、PCR法、遺伝子組み換え、遺伝子シーケンシング法、次世代シーケンサーの原理と応用について4000字以上にまとめなさい。

参考資料

- ・「イラストेटドハーバー生化学」丸善出版 ISBN:4621300970
- ・田村隆明「基礎から学ぶ遺伝子工学」羊土社 ISBN:4758120838

レポート課題2

タンパク質の発現解析に関する実験の概要を説明し、ウェスタンブロット法、ELISA法、フローサイトメトリー法の原理と応用について4000字以上にまとめなさい。

参考資料

- ・「イラストेटドハーバー生化学」丸善出版 ISBN:4621300970
- ・田村隆明「基礎から学ぶ遺伝子工学」羊土社 ISBN:4758120838

授業外学習

公開されている論文を読み、用いられている実験手法を中心に各自でまとめる。

教科書

特になし

参考書

上記以外の参考書、参考文献については、それぞれ関心のある分野に応じて、相談の上、適宜紹介する。

備考

動物臨床生化学演習 (HCH54)

通年

Seminar in Animal Clinical Biochemistry

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～22 CH
単位数	2.0単位
担当教員	武光浩史

授業の概要

人医療の研究と同様に、動物医療に関する研究においても分子生物学的な手法を用いた実験が不可欠である。この講義では遺伝子やタンパクを解析する方法を中心とした実験計画の立案、実験法、データ解析を実施するための知識を修得し、レポートにまとめる。

到達目標

1. 研究計画を立案できる
2. 研究方法を理解できる
3. データを論文形式にまとめることができる

評価方法

評価はレポート80%（到達目標1.3を評価）、質疑応答20%（到達目標2を評価）の重みで評価する。

注意事項

提出物の期限は厳守

授業計画

【レポート課題】

課題1

BMC Veterinary Research から犬の再生医療に関する1年以内の論文を選び、要約して自らの知見と合わせてレポート(2000字以上)を作成する。

課題2

BMC Veterinary Research から犬の糖尿病に関する1年以内の論文を選び、要約して自らの知見と合わせてレポート(2000字以上)を作成する。

【スクリーニング時における指導内容】

各受講者からの要約レポート・質問をつき合わせて討議することによって、多様な視点から内容に関する理解を深める。その結果、動物医療における日進月歩の技術や知識を理解し、分子生物学的な深い知見を得ることができる。

授業外学習

与えられたテーマに沿った論文を読む。スクリーニングと合わせて90時間を目安に学習を行う。

教科書

原則としてプリントを配布する。

参考書

適宜紹介する

備考

特別研究（HCH55）

通年

Special Research

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～20 CH
単位数	6.0単位
担当教員	枝松千尋

授業の概要

バイオメカニクスに関する研究を行い修士論文としてまとめる。健康科学分野における高度な専門知識と技能を身につけ、健康生活に関する様々な問題点を、学術的な立場に立って解決できる人材の育成を目指す。

到達目標

- 1 「研究課題に対して科学的にアプローチする力を身につける」
- 2 「学会発表・論文投稿ができる力を身につける」

評価方法

特別研究に取り組む態度・姿勢(30%：到達目標1)、修士論文発表会および修士論文(70%：到達目標2)により総合的に評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

実験に関する諸手続き、発表や審査、論文提出などの日程を十分に把握しておくこと。

授業計画

1年次

4月 オリエンテーション（スクーリング）

先行研究の調査とテーマの設定

8月 具体的研究計画の検討（スクーリング）

研究の実施に関わる諸手続き

実験・調査の実施

結果の整理、考察

2月 追加実験・調査の具体的研究の検討（スクーリング）

研究の実施に関わる諸手続き

実験・調査の実施

結果の整理、考察

2年次

8月 中間発表（スクーリング）

（場合により追加実験・調査）

初稿提出

コメント（スクーリング）

修正稿提出

1月 論文提出

2月 口頭試問（スクーリング）

※その他進捗状況に応じて適宜スクーリングないし通信指導を行う。

授業外学習

文献収集を徹底して行う。

実験を計画的に行うとともに、データ解析を営々と取り組む。

教科書

使用しない。

参考書

適宜紹介する。

備考

特別研究（HCH56）

通年

Special Research

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～20 CH
単位数	6.0単位
担当教員	徳田美智

授業の概要

企業や非営利団体、公共団体など様々な組織は、絶えず変化する環境の中で経営活動を行っている。さらに、グローバル化やICTなど技術の発展に伴い、企業が行う意思決定は、より高度化・複雑化している。現在社会において組織が抱える課題や業界の動向、リスク対策など、経営学から捉えた研究テーマを設定し、文献調査、アンケート調査等を行う。得られた資料を分析・解析し、考察を加えて最終的に修士論文としてまとめる。

到達目標

1. 企業活動に対する関心高め、様々な文献にあたり、自身のテーマを決定することができる。
2. 文献使用やアンケート結果の分析・解析を行うことができる。
3. 論文作成上必要な論理的思考とその展開方法を身につける。
4. 最終的に修士論文を作成し、内容をプレゼンテーションすることが出来る。

評価方法

特別研究へ取り組む態度・意欲：10%（到達目標1を評価）、資料検索の範囲：20%（到達目標1を評価）、資料分析：20%（到達目標2を評価）、中間発表：10%（到達目標3を評価）、全体的な論文の仕上がり：40%（到達目標3、4を評価）により評価する。

注意事項

- ・指導事項をよく聞いて理解すること。
- ・論文執筆に必要な研究手法について、基本的なことをしっかりと理解しておくこと。

授業計画

（1年次）

4月 オリエンテーション（スクーリング）

- ・研究（調査・実験）テーマと方法の設定
- ・研究計画の立案

・研究（調査）に関連する文献収集・講読および実施

8月 具体的な研究計画書作成（調査計画の作成）（スクーリング）

- ・研究（調査）の実施

2月 中間発表（スクーリング）

（2年次）

4月 オリエンテーション（スクーリング）

中間発表、進捗状況の確認

1月 論文提出（スクーリング）

2月 口頭試問（スクーリング）

授業外学習

- ・各自のテーマにあわせて、関連する先行研究となる文献や書籍に多くあたること。
- ・研究の進捗について、メールで定期的に報告できるように準備しておくこと。

教科書

それぞれ関心のある分野に応じて、相談の上、適宜紹介する。

参考書

それぞれ関心のある分野に応じて、相談の上、適宜紹介する。

備考

特になし

特別研究（HCH57）

通年

Special Research

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～20 CH
単位数	6.0単位
担当教員	村山公保

授業の概要

持続可能な社会の構築のために、IoTなどの情報技術を活用する研究を行う。各自が研究テーマを設定し、文献調査、システム的设计や構築、運用テスト等を行う。得られた結果を分析・解析し、考察を加えて最終的に論文としてまとめる。

到達目標

1. 情報技術を使って社会で役立つものを提案や構築することができる。
2. 文献等を読み、自力で自分の技術力を向上させ、それ以前に、できなかったことができるようになる。
3. 最終的に論文を作成し、内容をプレゼンテーションすることが出来る。

評価方法

・特別研究に取り組む態度・意欲40%(到達目標の1、2を評価)、論文内容・プレゼンテーション60%(到達目標の3を評価)の重みで判定する。

注意事項

・仮想環境(VirtualBox等)が動作するノートパソコンを持参すること。

授業計画

【授業計画】

1年次

前期

- ・オリエンテーション（スクーリング：4月）
- ・研究（調査・設計・実装・実験）テーマと方法の設定
- ・研究計画の立案
- ・研究（調査・設計・実装・実験）に関連する文献収集・講読および実施
- ・研究計画書作成（スクーリング：8月）
- ・研究（調査・設計・実装・実験）の実施
- ・中間報告会（9月下旬）

後期

- ・研究（調査・設計・実装・実験）の実施
- ・研究計画の確認（スクーリング：12月）
- ・中間報告会（2月中旬）

2年次

前期

- ・オリエンテーション・研究計画の確認（スクーリング：4月）
- ・研究（調査・設計・実装・実験）の実施、文献収集・講読
- ・研究計画書作成（スクーリング：8月）
- ・研究（調査・設計・実装・実験）の実施
- ・中間報告会（9月下旬）

後期

- ・研究（調査・設計・実装・実験）の実施
- ・修士論文初稿提出（スクーリング：12月）
- ・修士論文提出（1月末の平日ㄨ切）
- ・修士発表準備
- ・修士論文発表・口頭試問（2月中旬）
- ・修士論文作成（最終）
- ・修士論文提出

授業外学習

常に研究の進行状況の報告を求めるので、いつでも発表できるように準備しておくこと。

教科書

井上直也、村山公保、竹下隆史、荒井透、荻田幸雄「マスタリングTCP/IP 入門編 第6版」、オーム社、2019、978-4-274-22447-8

参考書

必要に応じて、適宜紹介する

備考

特になし

特別研究（HCH59）

通年

Special Research

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～20 CH
単位数	6.0単位
担当教員	湯川尚一郎

授業の概要

人間が動物と共に安心して暮らすために、人間と動物を取り巻く様々な課題を解決するための研究を行うことを目的に、各学生が研究課題を設定し、文献調査、実験等を行う。得られた結果を分析・解析し、考察を加えて最終的に論文としてまとめる。

到達目標

1. 実験・研究方法、論文の読み方・書き方を習得し、研究（調査・実験）結果を解析、評価を行い、修士論文としてまとめる。
2. 「公衆衛生学」について理解を深め、研究発表能力を身につける。

評価方法

修士論文および発表会での発表姿勢や審査内容で評価する。評価は、論文へ向き合う姿勢40%（到達目標1, 2を評価）、修士論文内容40%（到達目標1, 2を評価）、発表会での評価20%（到達目標1, 2を評価）とする。

注意事項

研究に関する諸手続き、論文提出の日程、発表の審査などを把握して研究を進めること。

定期的に進捗状況を報告すること。

「人を対象とする研究倫理」等についての研修会や「実験動物」関連の講習会を受講すること。

授業計画

【1年次】

前期 先行研究の調査、調査研究の立案

- ・オリエンテーション
- ・研究テーマと方法の設定
- ・研究計画の立案
- ・研究に関連する文献収集
- ・研究計画書作成（スクーリング：8月・9月）

後期 調査研究課題の決定と手続き

- ・研究テーマの確定
- ・研究開始
- ・中間報告と指導（スクーリング：12月）

【2年次】

前期 研究の進行と報告

- ・研究（調査・実験）の実施
- ・中間報告（スクーリング：8月・9月）

後期

- ・研究（調査・実験）の実施
- ・中間報告（スクーリング：12月）
- ・査読用修士論文提出準備
- ・修士論文要旨・査読用論文提出
- ・修士発表会準備
- ・修士論文発表会口頭試問（2月）
- ・修士論文作成（最終）
- ・修士論文提出

授業外学習

講義で得られた情報を深めるため、文献を集め読み込んでいく。

調査研究に適切に取り組み、必要に応じ報告をあげていく。

データを集計し、論文の執筆を進める。

教科書

特になし。

参考書

必要に応じて紹介する。

備考

特になし。

特別研究（HCH60）

通年

Special Research

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～20 CH
単位数	6.0単位
担当教員	武光浩史

授業の概要

小動物臨床においてこれまで治療法の確立していない、あるいは検査法の確立していない分野に対して分子生物的手法を用いて新たな知見を得るために、各自が実験計画の立案、参考文献検索、データ解析を行い、論文を作成する。

到達目標

1. 各自の研究課題の内容で修士論文の作成を行う
2. テーマに応じたプレゼンテーションを行う

評価方法

論文提出60%（到達目標1を評価）とプレゼンテーション40%（到達目標2を評価）

注意事項

論文作成に必要な英語力も並行して身につけること

授業計画

1年次

4月 オリエンテーション（スクーリング）

研究テーマの決定、先行研究の精読

実験プロトコル作成

8月 実験（スクーリング）

実験の実施

結果の整理、考察

2月 データ解析（スクーリング）

中間発表、必要に応じて追加実験

2年次

4月 初稿作成（スクーリング）

中間発表、必要に応じて追加実験

1月 論文提出（スクーリング）

2月 口頭試問（スクーリング）

※その他進捗状況に応じて適宜スクーリングないし通信教育を行う。

【スクーリングにおける指導内容】

- ・ 課題やテーマ内容を広げたり焦点を深めたりすることで研究課題を明確にしていく
- ・ 研究テーマに関する質疑応答を通して、理解を深める。
- ・ 研究テーマに関連する実践的な情報を提供し、研究指導・論文作成等の指導を行う。
- ・ 研究の進捗状況を確認し、研究計画を見直す。

授業外学習

テーマにおける最新の知見を常にアップデートしておくこと

教科書

使用しない

参考書

適宜紹介する

備考

教育開発論研究 (HCH61)

通年

Research on Educational Improvement

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	23～23 CH
単位数	4.0単位
担当教員	高木加奈絵

授業の概要

「教育開発」をするためには、日本の教育政策や教育学が何を指し、実現してきたのか／してこなかったのかを知る必要がある。これについて、教育学だけでなく、政治学、経済学等の知見も踏まえながら、なぜ現在の状況となっているのかを考える。

【研究倫理教育】

研究不正防止の観点から研究倫理（研究活動における不正行為（捏造、改ざん、盗用）、研究データの管理など）に関する内容を含む。

到達目標

- 「教育」という営みが、いかに政治や経済と結びついているのかを理解する。
- 教育における自由と平等の観点から、今日の教育改革の動向を整理する。
- 今後の教育政策はどのような方向に向かう必要があるのか（＝教育開発）について、自分の意見をまとめる。

評価方法

課題レポート及び口頭試問時における質疑応答により評価する。

評価は、レポート70%（到達目標1, 2を評価）、質疑応答30%（到達目標3を評価）の重みで判定する。

注意事項

- 論文の基本的な作法を守り、レポートを執筆すること（特に剽窃に注意すること）。
- 適切な参考文献を見つけられない場合は、相談すること。

授業計画

【授業計画】

（レポート課題の学習方法）

課題Ⅰ：教育政策の歴史は、冷戦構造（保革対立図式）のなかで展開されてきたという側面がある。日本における保革対立図式とはなにか。またそれが教育政策とどう関係しているのかについて、「国民の教育権論」と、「国家の教育権論」という2つの言葉を必ず用いて、論述しなさい。（4000字以上）

課題Ⅱ：臨時教育審議会は、「教育の自由化」路線に向けた今日の教育改革の端緒であったといわれている。こうした「教育の自由化」には、どういったメリット・デメリットがあるのか。論述しなさい。（4000字以上）

（参考文献）

（1）課題Ⅰの参考文献

- 宗像誠也『教育行政学序説 増補版』有斐閣、1954年。ISBN 4-641-63195-6
- 堀尾輝久『現代教育の思想と構造』同時代ライブラリー、1992年。ISBN 978-4-002-60123-6
- 黒崎勲『教育行政学』岩波テキストボックス、1999年。ISBN：978-4-000-26018-3
- 五十嵐武士『対日講和と冷戦－戦後日米関係の形成－』東京大学出版会、1986年。ISBN 978-4-13-030061-2
- 大嶽秀夫『戦後日本のイデオロギー対立』三一書房、1996年。ISBN 978-4-380-96215-8

（2）課題Ⅱの参考文献

- 大嶽秀夫『自由主義的改革の時代』中公叢書、1994年。ISBN 978-4-120-02342-2
- 教育政策研究会編『臨教審総覧 上』第一法規、1987年。ISBN 4474047176
- 教育政策研究会編『臨教審総覧 下』第一法規、1987年。ISBN 4474047176
- 市川昭午『教育の私事化と公教育の解体－義務教育と私学教育－』教育開発研究所、2006年。ISBN 978-4-87380-365-9

授業外学習

予習：指定された文献の該当ページを読み、概略をつかむ。

復習：講義内容をまとめ、各単元で課題レポートを作成する。

教科書

勝野正章・村上祐介編『教育行政と学校経営 新訂』放送大学教育振興会、2020年（ISBN 978-4-595-14132-4）。

参考書

代表的なものを掲げる。自分でも調べてみることを。

- ・広田照幸『教育改革のやめ方—考える教師、頼れる行政のための視点』岩波書店、2019年。ISBN 978-4-000-61361-3
 - ・ケネス・ハウ著 大桃敏行他訳『教育の平等と正義』東信堂、2004年。ISBN 978-4-887-13568-0
 - ・宮寺晃夫編『再検討 教育機会の平等』岩波書店、2011年。ISBN 978-4-000-22587-8
-

備考

①メールの返信は比較的早い方です。

質問や相談には随時お答えしますので、遠慮せずにご連絡ください。

②内容が少し難しいでしょうから、レポートは何度か提出期限を区切り、随時、添削をしていきます。

PCがあると課題がとてよくはかどるでしょうから、できれば購入してください。

人間形成論研究 (HCH62)

通年

Research on Character Building

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	23～23 CH
単位数	4.0単位
担当教員	橋元純也

授業の概要

東洋古典文献について、その人間観・世界観・社会観を考究し、社会的次元における人間形成のあり方を探求する。

到達目標

- 東洋古典における人間観・世界観・社会観を理解し、説明できる。
- 東洋古典における人間形成のあり方について、独自の視点で理解し、説明できる。

評価方法

提出物や取りくみの状況・内容(100%)を以下のように評価し、総合計60点以上を合格とする。

- レポート課題①(35%)：到達目標1を評価
- レポート課題②(35%)：到達目標2を評価
- 口頭試問(30%)：到達目標1・2を評価

注意事項

原典読解について不明点があれば、すぐに指導・助言を求めること。

授業計画

【課題レポート①】

下記の課題図書から古典文献を複数選択し、そこに現れる人間観・世界観・社会観などについて、4000字以上で論述せよ。

【課題レポート②】

下記の課題図書から古典文献を複数選択し、そこに現れる人間形成のあり方について、4000字以上で論述せよ。

※課題図書

- 『漢文大系』シリーズ(明治書院)
 - 『論語』(吉田賢抗)
 - 『大学・中庸』(赤塚忠)
 - 『孟子』(内野熊一郎)
 - 05・06『荀子』(藤井専英)
 - 07・08『老子・荘子』(阿部吉雄 他)
 - 11・12『韓非子』(竹内照夫)
 - 22『列子』(小林信明)
 - 27～29『礼記』(竹内照夫)
 - 35『孝経』(栗原圭介)
 - 36『孫子・呉子』(天野鎮雄)
 - 42・43・52『管子』(遠藤哲夫)
 - 50・51『墨子』(山田琢)
 - 54・55・62『淮南子』(楠山春樹)
- 『新編漢文選』シリーズ(明治書院)
 - 01～03『呂氏春秋』(楠山春樹)
 - 04～06『列女伝』(山崎純一)
 - 09・10『晏子春秋』(谷中信一)

授業外学習

古典文献を読むうえでの問題点・不明点はつねに整理し、質問する。

教科書

なし。

参考書

レポート内容に応じて、適宜紹介する。

備考

人間形成論演習（HCH63）

通年

Seminar in Character Building

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～23 CH
単位数	2.0単位
担当教員	橋元純也

授業の概要

東洋古典の歴史書の人物描写について、そこに現れる人間観・世界観・社会観を考究し、社会的次元における人間形成のあり方を探求する。

到達目標

- 東洋古典の歴史書の人物描写に現れる人間観・世界観・社会観を理解し、説明できる。
- 東洋古典の歴史書における人間形成のあり方を独自の視点で理解し、説明できる。

評価方法

提出物や取りくみの状況・内容（100%）を以下のように評価し、総合計60点以上を合格とする。

レポート課題①（35%）：到達目標1を評価

レポート課題②（35%）：到達目標2を評価

スクーリング時の質疑応答（30%）：到達目標1・2を評価

注意事項

原典読解について不明点があれば、すぐに指導・助言を求めること。

授業計画

【課題レポート①】

下記の課題図書から古典文献を複数選択し、その人物描写に現れる人間観・世界観・社会観などについて、2000字以上で論述せよ。

【スクーリング①】

課題レポート①でまとめた内容についての質疑応答と、課題レポート②に向けての指導・助言をおこなう。

【課題レポート②】

下記の課題図書から古典文献を複数選択し、そこに現れる人間形成のあり方について、2000字以上で論述せよ。

【スクーリング②】

課題レポート②でまとめた内容についての質疑応答と、科目のまとめをおこなう。

※課題図書

○『漢文大系』シリーズ（明治書院）

47～49『戦国策』（林秀一他）

38・39『史記（本紀）』（吉田賢抗）

85～87『史記（世家）』（吉田賢抗）

88～92・115・120『史記（列伝）』（水沢利忠他）

授業外学習

古典文献を読むうえでの問題点・不明点はつねに整理し、質問する。

教科書

なし。

参考書

レポート内容に応じて、適宜紹介する。

備考

運動免疫学研究 (HCH66)

通年

Research on Exercise Immunology

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	23～23CH
単位数	4.0単位
担当教員	👤 椎葉大輔

授業の概要

運動は生体の諸機能をダイナミックに変化させる行動であり、免疫機能も例外ではない。本講義では生体における免疫機能の仕組みを踏まえ、運動の影響について理解することを目的とする。【アクティブラーニング】先行研究を調査し、プレゼンテーションする場を設ける。【フィードバック】プレゼンテーションの内容について、他の先行報告の紹介を交え、ディスカッションする。【ICTを活用した双方向型授業】Google Classroomを利用して、授業資料および先行研究論文（PDF）を提示する。【研究倫理教育】「先行研究調査」を実施することから、授業内容には「不正行為を含めた研究活動の解説」を含む。

到達目標

- 1 免疫機能の基本的な仕組みを理解する
- 2 免疫機能に対する運動の影響について理解する

評価方法

課題レポート40%（到達目標1, 2）および口頭試問（到達目標1, 2）から評価する。レポートは教員が指定するテーマをもとにした、先行研究の検索および批判的レビューとする。総合点60点以上を合格とする。

注意事項

当該分野では先行研究では日々新たな知見が報告されている。参考書による学習とともに、学術論文を自ら検索し、情報集することが必要である。

授業計画

【レポート課題】

下記項目に関する課題を前期に1つ、後期に1つ提示するので、それに応じてレポート（4000字以上）を作成する。

- 1.自然免疫
- 2.獲得免疫
- 3.運動による免疫機能の変化
- 4.運動と感染症
- 5.生活習慣病における免疫応答の関わりと運動の影響

授業外学習

自ら選定した運動と免疫に関する学術論文を熟読した上で、課題レポートを作成する。随時メールでの質疑応答を行う。

教科書

指定なし

参考書

・運動と免疫 ―からだをまもる運動のふしぎ―, 大野秀樹, 木崎節子 編, ナッブ, 2009

備考

特記事項なし

動物看護学研究 (HCH67)

通年

Research on Veterinary Nursing

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	23～23CH
単位数	4.0単位
担当教員	村尾信義

授業の概要

愛玩動物看護師法は令和4年5月1日から施行されることになっている。

愛玩動物看護師は、獣医療分野の「診療の補助」に加えて、「愛護及び適正飼養」分野の役割を担うこととなる。

さらに自然環境保全分野等への役割に対する期待も高い。

この講義では、今後の動物看護師に求められる動物愛護管理行政分野や自然環境保全分野等での役割について学習する。

到達目標

1. 動物看護の成り立ちを振り返り、様々な状況下における動物や人間に対するサポートについて理解する。
2. 動物のストレス評価に用いる生理学・行動学について説明できる。
3. 動物のストレスを軽減できる保定技術について説明できる。

評価方法

課題レポートとスクーリング時の質疑応答により評価する。

評価は、レポート70%（到達目標1、2、3を評価）、質疑応答30%（到達目標1、2、3を評価）の重みで判定する。

注意事項

レポートは、最新の情報との関連を含め、自らの考え、見解などを含めること。

質問等があれば、メール等で問い合わせ、相談すること。

授業計画

【レポート課題1】

災害発生時の被災動物の適正飼養やその飼い主である被災者への対応について、国内または海外における災害とペットに関する事例を調べ、愛玩動物看護師の役割について4000字以上にまとめなさい。

<参考資料>

環境省HP「災害時におけるペットの救護対策ガイドライン」

Wildlife Health Australia HP; Bush Emergency – Information and Resources for Veterinarians, Vet Nurses, Registered Carers and the Community

【レポート課題2】

動物看護師の職務における動物の保定について、国内外の獣医療・動物看護の発展の歴史や、動物の福祉、動物のストレスを評価する生理学や行動学などの指標等を用いて4000字以上にまとめなさい。

<参考資料>

村尾信義、谷田創. 2018.スワブによる小型犬の唾液採取技術の検証. *Animal Behaviour and Management*, 54(2), 59-67.

村尾信義、谷田創. 2018.動物看護師の日常業務における動物の保定技術に関する質問紙調査 -保定時における動物看護師の安全対策について-. *Veterinary Nursing*, 23(2), 7-13.

今道友則. 2013. 動物看護学 総論 (動物看護概論「②獣医学・動物看護学の歴史」: 第1章). 改訂新版. pp6-11, 日本動物看護学会, 東京.

小佐々 学著, 池本卯典, 吉川泰弘, 伊藤伸彦監. 2013. 獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 獣医学概論 (獣医史学: 第2章). pp28-57, インターズー, 東京.

Orpet H, Welsh P. 2013. 動物看護実践ハンドブック. 桜井富士朗 監訳. インターズー, 東京.

授業外学習

図書や資料のみならず、遠隔のツール等を介して調べたりすることで学びを深める。

公開されている論文 (英語含む) を探し、熟読すること

教科書

特に指定しない。

参考書

上記以外の参考書、参考文献については適宜紹介する。

備考

特別研究（HCH68）

通年

Special Research

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～23 CH
単位数	6.0単位
担当教員	👤 椎葉大輔

授業の概要

運動を含めた生活活動／生活環境が免疫機能に与える影響について、テーマの選定および研究を行い、修士論文を作成することを目的とする。【アクティブラーニング】先行研究および実施した研究の結果についてプレゼンテーションする場を設ける。【フィードバック】プレゼンテーションの内容について、他の先行報告の紹介を交え、ディスカッションする。【ICTを活用した双方向型授業】Google Classroomを利用して、先行研究論文（PDF）の提示、修士論文の添削を行う。【研究倫理教育】「測定データ分析」および「修士論文作成」を実施することから、授業内容には「不正行為を含めた研究活動の解説」を含む。

到達目標

- 1 設定した研究課題に対し、適切な方法を選択して実施・評価できる。
- 2 得られた結果に矛盾のない論旨展開して公表できる。

評価方法

進捗報告レポート30%（到達目標1，2）および修士論文の発表内容70%（到達目標1，2）により総合的に評価する。
上記の評価方法により、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

実験に関する諸手続き、発表や審査、論文提出などの日程を十分に把握しておくこと。
なお、本特別研究は分子生物学的手法を用いた研究活動となる。

授業計画

1年次

4月 オリエンテーション（スクーリング）

研究テーマの決定：運動を含めた生活活動／環境要因と免疫応答に関する研究テーマを立案する。その際、研究課題の独創性や実現可能性を検討した上で最終決定する。

研究計画立案：研究倫理の確認を行なった上で、目的に沿った適切な実験手法であること、修学期間内に一定の結果が出る計画になっていることを確認する。

8月 具体的研究計画の検討（スクーリング）

9月 中間発表

実験結果を発表し、今後の方向性について確認する。

2月 中間発表（スクーリング）

実験結果を発表する。その際、結果報告だけでなく、先行研究を交えた考察を行う。

2年次

8月 スクーリング

9月 中間発表

論文を作成し初稿を提出する。必要に応じて、追加実験を行う。

1月 論文提出

修士論文審査会に向けた発表準備（スクーリング）

2月 修士論文発表会（スクーリング）

授業外学習

研究課題に関して、先行研究論文を中心に情報収集を行う。

教科書

指定なし

参考書

備考

特記事項なし

特別研究（HCH69）

通年

Special Research

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～23 CH
単位数	6.0単位
担当教員	村尾信義

授業の概要

小動物獣医療において、これまでに動物看護・保定の確立していない分野に対して、行動学的・生理学的・心理学的手法や質的研究法等を用いて新たな知見を得るために、各自が実験計画の立案、参考文献検索、データ解析を行い、論文を作成する。

到達目標

- 研究課題を自分で見つけ出し、それに科学的にアプローチできる能力を身につける。
- 専門性の高い研究成果を、適切な用語で、かつ分かりやすく論旨展開して公表できる。

評価方法

提出された修士論文（50%）（到達目標1・2）および口頭発表時の試問への応答（50%）（到達目標2）に基づいて評価する。

注意事項

1年次9月・2月、2年次8月に中間発表を行うので、早めに準備する。

授業計画

1年次

4月 オリエンテーション（スクーリング）

研究テーマの決定、先行研究の精読

実験プロトコル作成

8月 実験（スクーリング）

実験・調査の実施

結果の整理、考察

2月 データ解析（スクーリング）

中間発表（場合により追加実験・調査）

2年次

8月 中間発表（スクーリング）

（場合により追加実験・調査）

初稿提出

コメント（スクーリング）

修正稿提出

1月 論文提出

2月 口頭試問（スクーリング）

※その他進捗状況に応じて適宜スクーリングないし通信指導を行う。

授業外学習

- 既読の文献の内容を整理する。
- 実験、調査を行い、それらを適切なかたちでまとめる。

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて文献を提示する。

備考

特別研究（HCH70）

通年

Special Research

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～23CH
単位数	6.0単位
担当教員	橋元純也

授業の概要

東洋古典の適切な原典読解にもとづき、その人間観について、人間形成のあり方を中心に独自の視点で考察し、修士論文としてまとめる。

到達目標

1. 先行研究について検討したうえで、みずからの研究テーマの妥当性について説明できる。
2. 修士論文を完成する。

評価方法

提出物や取りくみの状況・内容（100%）を以下のように評価し、総合計60点以上を合格とする。

中間発表（30%）：到達目標1を評価

修士論文と口頭試問の内容（70%）：到達目標2を評価

注意事項

原典読解について不明点があれば、すぐに指導・助言を求めること。

授業計画

[1年次]

- ・スクーリング／オリエンテーション（4月）
- ・通信指導／先行研究検討
- ・通信指導／第1次研究計画作成（6月）
- ・通信指導／研究テーマ検討
- ・スクーリング／第2次研究計画作成（8月）
- ・通信指導／研究テーマ決定
- ・スクーリング／第3次研究計画作成（2月）

[2年次]

- ・スクーリング／中間発表（4月）
- ・通信指導／論文内容検討
- ・通信指導／第4次研究計画作成（6月）
- ・通信指導／第一稿提出
- ・スクーリング／第一稿検討（8月）
- ・通信指導／第二稿提出
- ・通信指導／第二稿検討
- ・通信指導／修士論文提出（1月）
- ・スクーリング／口頭試問（2月）

授業外学習

原典読解の適切性をふくめ、つねに論文の校正作業につとめる。

教科書

なし。

参考書

適宜、紹介する。

備考

教育開発論特論 (HCH71)

通年

Special Lecture on Education Development

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～24 CH
単位数	4.0単位
担当教員	高木加奈絵

授業の概要

よい論文とは何か。また、どうやったらよい論文を執筆できるのか。教育・文化の高度な専門知識、技能を身につけるため、本講義では、教育学を通して、論文の作法や論理構成の仕方、適切な調査方法を学ぶ。

【研究倫理教育】

研究不正防止の観点から研究倫理（研究活動における不正行為（捏造、改ざん、盗用）、研究データの管理など）に関する内容を含む。

到達目標

- 1.論文の入手の仕方を理解する。
- 2.よい論文の構成要素を説明できる。
- 3.自分の研究テーマに照らし合わせて、適切な調査方法を選択できるようになる。

評価方法

課題レポート及び口頭試問時における質疑応答により評価する。

評価は、レポート70%（到達目標1, 2を評価）、質疑応答30%（到達目標3を評価）の重みで判定する。

注意事項

1. 論文の基本的な作法を守り、レポートを執筆すること（特に剽窃に注意すること）。
2. 適切な参考文献を見つけられない場合は、相談すること。

授業計画

【授業計画】

課題Ⅰ：質的調査法を用いた教育学の“できのよい”論文を3本探し、①なぜその論文が“できのよい”論文だと判断したのか、②その3本の論文で用いられている調査方法の特徴、③自分の研究テーマにその調査方法をどのように活用できる可能性があるのかを論述しなさい。（2000字以上）

課題Ⅱ：

- ①課題Ⅰで執筆したレポートの注記の仕方を、従来式で記述した場合には近代式に、近代式で記述した場合には従来式に表示しなさい。
- ②そのうえで、それぞれの注記の仕方のメリット、デメリットを1000字程度で論述しなさい。

（参考文献）

- 1) 澤田昭夫『論文の書き方』講談社学術文庫、1977年。ISBN 978-4061581531
- 2) S.B.メリアム『質的調査法入門：教育における調査法とケース・スタディ』ミネルヴァ書房、2004年。ISBN 978-4623041565
- 3) 専修大学出版企画委員会『新・知のツールボックス：新入生のための学び方サポートブック』専修大学出版局、2018年。
- 4) 久米郁男『原因を推論する：で維持分析方法論のすゝめ』有斐閣、2013年。ISBN 978-4641149076

授業外学習

学習時間の目安：60時間

予習：指定された文献の該当ページを読み、概略をつかむ。

復習：講義内容をまとめ、各単元で課題レポートを作成する。

教科書

指定しない。

参考書

代表的なものを掲げる。自分でも調べてみることを。

G.キング他『社会科学のリサーチデザイン：定性的研究における科学的推論』勁草書房、2004年。ISBN 978-4326301508

備考

メールの返信は比較的早い方です。

質問や相談には随時お答えしますので、遠慮せずにご連絡ください。

教育開発論演習（HCH72）

通年

Education Development Theory Exercise

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～24 CH
単位数	2.0単位
担当教員	高木加奈絵

授業の概要

居酒屋談義の教育論と、学者が教育学という学問を通して行って来た教育論の間には、どのような違いがあるのだろうか。もしかしたら違いなどないのだろうか。この演習では、様々な文献やデータを通して、この問いについて深く掘り下げていく。

【研究倫理教育】

研究不正防止の観点から研究倫理（研究活動における不正行為（捏造、改ざん、盗用）、研究データの管理など）に関する内容を含む。

到達目標

- 「教育」という言葉の定義がなぜ論者によって様々なのかについて、説明できる。
- 教育現象を分析する際に何に気を付けなければならないのかを理解する。
- 自分の気になる教育現象について、意見をまとめる。

評価方法

課題レポート及び口頭試問時における質疑応答により評価する。

評価は、レポート70%（到達目標1, 2を評価）、質疑応答30%（到達目標3を評価）の重みで判定する。

注意事項

- 論文の基本的な作法を守り、レポートを執筆すること（特に剽窃に注意すること）。
- 適切な参考文献を見つけられない場合は、相談すること。

授業計画

【授業計画】

（レポート課題の学習方法）

課題Ⅰ：様々な論者の「教育」という言葉の定義について、2000字程度で紹介しなさい。

課題Ⅱ：少年非行に関する様々な文献を読んで、少年非行についてデータを用いて分析する際に気を付けなくてはならないことを、2000字程度で論述しなさい。

（参考文献）

（1）課題Ⅰの参考文献

- 佐藤学編『岩波講座 教育 変革への展望第1巻 教育の再定義』岩波書店、2016年。ISBN 978-4000113915
- 村井実「『教育』ということとその『定義』の問題」『教育学研究』第97号、29–34頁。
- 広田照幸『ヒューマニティーズ 教育学』岩波書店、2009年。ISBN 978-4000283243

（2）課題Ⅱの参考文献

- 片山徒有他『18・19歳非行少年は、厳罰化で立ち直れるか』現代人文社、2021年。ISBN 978-4877987794
- 広田照幸編『現代日本の少年院教育：質的調査を通して』名古屋大学出版会、2012年。ISBN 978-4815807054

授業外学習

予習：指定された文献の該当ページを読み、概略をつかむ。

復習：講義内容をまとめ、各単元で課題レポートを作成する。

教科書

勝野正章・村上祐介編『教育行政と学校経営 新訂』放送大学教育振興会、2020年（ISBN 978-4-595-14132-4）。

参考書

質問があり次第、適宜掲げる。

備考

①メールの返信は比較的早い方です。

質問や相談には随時お答えしますので、遠慮せずにご連絡ください。

②内容が少し難しいでしょうから、レポートは何度か提出期限を区切り、随時、添削をしていきます。

PCがあると課題がとてよくはかどるでしょうから、できれば購入してください。

人間形成論特論 (HCH73)

通年

Special Lecture on Human Formation

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～24 CH
単位数	4.0単位
担当教員	橋元純也

授業の概要

東洋古典文献について、その人間観・世界観・社会観を考究し、社会的次元における人間形成のあり方を探求する。

到達目標

1. 東洋古典における人間観・世界観・社会観を理解し、説明できる。
2. 東洋古典における人間形成のあり方について、独自の視点で理解し、説明できる。

評価方法

提出物や取りくみの状況・内容(100%)を以下のように評価し、総合計60点以上を合格とする。

- レポート課題①(35%)：到達目標1を評価
- レポート課題②(35%)：到達目標2を評価
- 口頭試問(30%)：到達目標1・2を評価

注意事項

原典読解について不明点があれば、すぐに指導・助言を求めること。

授業計画

【課題レポート①】

下記の課題図書から古典文献を複数選択し、そこに現れる人間観・世界観・社会観などについて、4000字以上で論述せよ。

【課題レポート②】

下記の課題図書から古典文献を複数選択し、そこに現れる人間形成のあり方について、4000字以上で論述せよ。

※課題図書

- 『漢文大系』シリーズ(明治書院)
 - 01『論語』(吉田賢抗)
 - 02『大学・中庸』(赤塚忠)
 - 04『孟子』(内野熊一郎)
 - 05・06『荀子』(藤井専英)
 - 07・08『老子・荘子』(阿部吉雄 他)
 - 11・12『韓非子』(竹内照夫)
 - 22『列子』(小林信明)
 - 27～29『礼記』(竹内照夫)
 - 35『孝経』(栗原圭介)
 - 36『孫子・呉子』(天野鎮雄)
 - 42・43・52『管子』(遠藤哲夫)
 - 50・51『墨子』(山田琢)
 - 54・55・62『淮南子』(楠山春樹)
- 『新編漢文選』シリーズ(明治書院)
 - 01～03『呂氏春秋』(楠山春樹)
 - 04～06『列女伝』(山崎純一)
 - 09・10『晏子春秋』(谷中信一)

授業外学習

古典文献を読むうえでの問題点・不明点はつねに整理し、質問する。

教科書

なし。

参考書

レポート内容に応じて、適宜紹介する。

備考

学習心理学特論 (HCH74)

通年

Psychology of Learning

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～24 CH
単位数	4.0単位
担当教員	唐川千秋

授業の概要

人間のこころの営みや知的活動を理解する1つの方向は、高次精神活動である問題解決の研究であり、もう1つは、もっとも基本的な機能である学習・認知についてである。この講義では、何かを知るという情報獲得、必要な情報を覚えるという記憶機能に焦点を当て、理論的枠組み及び近接領域からの影響により大きな転換点を迎えるつつある認知科学の今後の展開について、どのような論争の経緯があったのかを踏まえつつ理解を深めることを目的とする。

到達目標

1. 認知科学に関する最近の諸トピックスを、理論的背景も含めて正確に理解する。

評価方法

到達目標1について、課題レポート2編および口頭試問により評価する。評価は、レポート80%、口頭試問20%の重みで判定する。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

参考図書については、入手しにくいもの、高額なものもあるので、必ずしも限定しない。ただし、他の図書館等で学習する場合、大学院レベルの内容を満たすものとするので、選定にあたっては予め相談すること。

授業計画

【レポート課題】

教科書を通読した後、2章分を選択し、引用文献等に当たりながら、それぞれについて4,000字以上のレポートを提出しすること。（合計2編のレポート）

なお、レポート作成にあたっては、

- （1）選択したテーマと日常経験との関連、
- （2）テーマが研究されるようになった背景・意義
- （3）今後の課題

の観点を踏まえて考察を加えること。

【主な参考図書】

- 1.箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋（著）2010 認知心理学 有斐閣 ISBN-13: 978-4641053748
- 2.松尾太加志（編）2018 認知と思考の心理学 サイエンス社 ISBN-13: 978-4781914237
- 3.道又爾・北崎充晃・大久保街亜・今井久登・山川恵子・黒沢学 2011 認知心理学—知のアーキテクチャを探る（新版）有斐閣 ISBN-13: 978-4641124530
- 4.鈴木宏昭 2016 教養としての認知科学 東京大学出版会 ISBN-13: 978-4130121101
- 5.高野陽太郎（編）1995 認知心理学〈2〉記憶 東京大学出版会 ISBN-13: 978-4130151023
- 6.大津由紀雄（編）1995 言語（認知心理学）東京大学出版会 ISBN-13: 978-4130151030
- 7.市川伸一（編）1996 認知心理学〈4〉思考 東京大学出版会 ISBN-13: 978-4130151047
- 8.日本認知科学会（編）認知科学モノグラフ 全12巻

授業外学習

予習：教科書の該当ページを読んで概略をつかむ。

復習：引用されている文献に当たり、研究の理論的背景、研究法、今後の課題を理解する。

教科書

記憶研究の最前線|太田信夫・多鹿秀継|北大路書房|978-4-7628-2166-0

参考書

上記以外のものについては適宜紹介する

備考

経営リスク特論 (HCH75)

通年

Special Lecture on Management Risk

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～24CH
単位数	4.0単位
担当教員	徳田美智

授業の概要

私たちを取り巻くリスクは、多様化・高度化・複雑化している。これまで経営リスクは、損失の発生可能性を中心に議論されていたが、現在は、企業目標に影響を与える可能性として、マイナスの影響とプラスの影響を検討する必要性が議論されるようになった。本講義では、多様化するリスクに対する対策と組織価値向上のための考え方や手法について修得する。

到達目標

1. リスクマネジメントについて、概念・理論を理解する
2. リスクマネジメント・プロセスとその特徴について、理解する
3. 効果的なリスクマネジメント導入とその課題について、理解する

評価方法

授業計画に示した2つのレポートの提出を求め、レポート75%（到達目標1、2を評価）、口頭試問25%（到達目標3を評価）で総合的に評価する。

注意事項

リスクマネジメントの基礎知識をもっていることがのぞましい。

授業計画

【レポート課題1】

リスクマネジメント・プロセスとは何か、プロセス全体のねらいや各段階で行うべき作業を整理して、4000字以上でまとめて下さい

<参考資料>

- ・亀井利明・亀井克之（2009）「リスクマネジメント総論（増補版）」同文館出版978-449537222
 - ・奈良由美子（2017）「改訂版生活リスクマネジメントー安全・安心を表現する主体としてー」一般財団法人放送大学教育振興会 978-4595140822
- 関連するニュース、Webサイト など

【レポート課題2】

企業が必要とされるリスクマネジメントの概要と、導入における課題について、4000字以上でまとめて下さい。

<参考資料>

- ・上田和勇（2011）「企業価値創造型リスクマネジメント[第4版-その概念と事例-]」白桃書房978-4561951100
 - ・三菱総合研究所・実践的リスクマネジメント研究会（2010）「リスクマネジメントの実践ガイドーISO31000の組織経営への取組みー」日本規格協会 978-4-542-70163-2
- 関連するニュース、Webサイト

授業外学習

1. 新聞やテレビ等のニュースで取り上げられている経営に関するリスクとその対応について常に興味を持ち、切り抜きをノートにまとめるなどの方法で充分に自習しておくこと。
2. 新聞やテレビのニュースで取り上げられている経営に関するリスクが、どのようにマネジメントされているのか、そのプロセスと課題について理解する。

教科書

特になし。

参考書

上記以外の参考書、参考文献については、それぞれ関心のある分野に応じて、相談の上、適宜紹介する。

備考

特になし。

情報リスク特論 (HCH76)

通年

Special Lecture on Information Risk

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～24 CH
単位数	4.0単位
担当教員	村山公保

授業の概要

情報リスクを考える上での基礎となる情報セキュリティとその安全性について幅広い視点から学ぶ。具体的には暗号技術、認証、バイOMETリック、サイバーセキュリティ、情報セキュリティマネジメントシステム、デジタルフォレンジック、法と倫理等について、発表と討論を通して学ぶ。

到達目標

1. 情報セキュリティについて幅広い観点から理解し、情報リスクについて他人と議論するための土台を構築する。

評価方法

・課題レポートおよびスクーリング時における口頭試問により評価する。評価は、レポート70%(到達目標の1を評価)、口頭試問30%(到達目標の1を評価)の重みで判定する。

注意事項

- ・学修の進め方がわからない場合には、メール等で問い合わせること。
- ・教科書の内容を理解することを目的にした課題になっているが、さらに踏み込んで、インターネットの記事や新聞、ニュース等で話題になっている事項について関連付けながらレポートをまとめると、より学びが深まり自身の成長につながるだろう。

授業計画

レポート課題1

教科書の1章～7章を読み、情報セキュリティの概要、暗号技術(共通鍵暗号、公開鍵暗号、デジタル署名とPKI、セキュア実装、情報ハイディング技術、バイOMETリックについて合計4000字以上でまとめなさい。

レポート課題2

教科書の8章～14章を読み、サイバーセキュリティ技術、情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)および情報セキュリティ監査、CC(ISO/IEC 15408)と情報システムセキュリティ対策の設計・実装、個人情報保護技術、デジタルフォレンジック技法、IoTセキュリティ、法と倫理について合計4000字以上でまとめなさい。

授業外学習

- ・この講義は、受講生との議論を中心に授業を進めるため、事前に十分な時間をかけて予習を行い、学んだことを資料にまとめてくること。
- ・日頃から情報セキュリティや情報リスクについて意識するようにする。

教科書

瀬戸洋一、佐藤尚宜、越前功、中田亮太郎、織茂昌之、長谷川久美、渡辺慎太郎、小檜山智久、村上康二郎著、「改訂版 情報セキュリティ概論」、日本工業出版、2019、978-4-8190-3103-5

参考書

井上直也、村山公保、竹下隆史、荒井透、苅田幸雄「マスタリングTCP/IP 入門編 第6版」、オーム社、2019、978-4-274-22447-8

備考

特になし

健康運動科学特論 (HCH77)

通年

Special Lecture on Health Exercise Science

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～24 CH
単位数	4.0単位
担当教員	枝松千尋

授業の概要

本講義は、生涯を通じて健康に生活するための知識を身につけ、科学的興味をもって理解を深化することを目的とする。特に運動を中心とした生活習慣が健康にどのように寄与するかを理解する。健康科学分野における高度な専門知識と技能を身につけ、健康生活に関する様々な問題点を、学術的な立場に立って解決できる人材の育成を目指す。

到達目標

1.健康に関して幅広い知識を身につけ実践できる。

評価方法

2回のレポート(70%)及び口頭試問(30%)でもって総合的に評価する。

上記の評価方法により、到達目標の達成度を総合的に評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

1. テキストに引用された学術論文等を積極的に読み、理解を深化させること。
2. 特にインターネットでの情報はその信憑性を十分に吟味すること。
3. レポートに引用した文献は必ず明示すること。
4. レポート課題はメールによって指示をする。

授業計画

- 1.文明と生活習慣・肥満
- 2.生活習慣と炎症
- 3.生活習慣と腸内環境
- 4.生活習慣と睡眠
- 5.運動とストレス・健康

上記項目に関するレポート課題を前期に1つ(運動とストレス・健康について)、後期に1つ(テキスト上の任意のテーマ)を提示する。自ら調べ、指定された課題についてのレポート(4000字)を作成する。随時メールでの質疑応答を行う。

授業外学習

テキストに引用された学術論文を積極的に読むこと。

教科書

「最高の体調~進化医学のアプローチで、過去最高のコンディションを実現する方法~」クロスメディア・パブリッシング,2018年,978-4295402121

参考書

David A. Raichlen et al. Physical activity patterns and biomarkers of cardiovascular disease risk in hunter-gatherers. Am J Hum Biol. 29(2), 2017

Northey JM et al. Exercise interventions for cognitive function in adults older than 50: a systematic review with meta-analysis. Br J Sports Med. 52(3), 154-160, 2018

von Haaren B et al. Does a 20-week aerobic exercise training programme increase our capabilities to buffer real-life stressors? A randomized, controlled trial using ambulatory assessment. Eur J Appl Physiol. 116(2), 383-94, 2016

備考

運動免疫学特論 (HCH78)

通年

Special Lecture on Motor Immunology

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～24 CH
単位数	4.0単位
担当教員	👤 椎葉大輔

授業の概要

運動は生体の諸機能をダイナミックに変化させる行動であり、免疫機能も例外ではない。本講義では生体における免疫機能の仕組みを踏まえ、運動の影響について理解することを目的とする。【アクティブラーニング】先行研究を調査し、プレゼンテーションする場を設ける。【フィードバック】プレゼンテーションの内容について、他の先行報告の紹介を交え、ディスカッションする。【ICTを活用した双方向型授業】Google Classroomを利用して、授業資料および先行研究論文（PDF）を提示する。

到達目標

- 1 免疫機能の基本的な仕組みを理解する
- 2 免疫機能に対する運動の影響について理解する

評価方法

課題レポート40%（到達目標1, 2）およびプレゼンテーション60%（到達目標1, 2）から評価する。レポートは教員が指定するテーマをもとにした、先行研究の検索および批判的レビューとする。総合点60点以上を合格とする。

注意事項

当該分野では先行研究では日々新たな知見が報告されている。参考書による学習とともに、学術論文を自ら検索し、情報集することが必要である。

授業計画

【レポート課題】

下記項目に関する課題を前期に1つ、後期に1つ提示するので、それに応じてレポート（4000字以上）を作成する。

- 1.自然免疫
- 2.獲得免疫
- 3.運動による免疫機能の変化
- 4.運動と感染症
- 5.生活習慣病における免疫応答の関わりと運動の影響

授業外学習

自ら選定した運動と免疫に関する学術論文を熟読した上で、課題レポートを作成する。随時メールでの質疑応答を行う。

教科書

指定なし

参考書

・運動と免疫 ―からだをまもる運動のふしぎ―, 大野秀樹, 木崎節子 編, ナッブ, 2009

備考

特記事項なし

運動免疫学演習 (HCH79)

通年

Exercise immunology exercise

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～24CH
単位数	2.0単位
担当教員	👤 椎葉大輔

授業の概要

運動は生体の諸機能をダイナミックに変化させる行動であり、免疫機能も例外ではない。本演習では運動と免疫機能の関わりについて、方法論を通して理解することを目的とする。【アクティブラーニング】先行研究および研究計画作成に関してプレゼンテーションを行う機会を設ける。【フィードバック】レポートおよびプレゼンテーション内容について、他の先行報告の紹介を交え、ディスカッションする。【ICTを活用した双方向型授業】Google Classroomを利用して、先行研究論文(PDF)の提示を行う。【研究倫理教育】「研究計画作成」を実施することから、授業内容には「不正行為を含めた研究活動の解説」を含む。

到達目標

1. 免疫機能測定 の原理と手技を理解する。
2. 研究データを評価・考察できる。

評価方法

課題レポート(50%)、スクーリング期間中のプレゼンテーション及びディスカッション(50%)により総合的に判定する。

注意事項

「運動免疫学特論」を履修していること。

授業計画

【レポート課題】

課題1

「Exercise」「Leukocyte」「Cytokine」など指定したキーワードから「運動と免疫」に関する論文を2つ以上選び、それぞれについて要約して自らの知見と合わせてレポート(2000字以上)を作成する。

【スクーリング時における指導内容】

受講者が作成したレポートをもとに、当該論文について討議し、研究目的の設定とともに目的を明らかにする方法論について学ぶ。またそれをもとに、支持した条件下の元での「研究計画の立案」を実施する。

授業外学習

研究課題に関して、先行研究論文を中心に情報収集を行う。

教科書

指定なし

参考書

・運動と免疫—からだをまもる運動のふしぎ-, 大野秀樹, 木崎節子 編, ナッブ, 2009

備考

特記事項なし

生活習慣病予防特論（HCH80）

通年

Special Lecture on Prevention of Lifestyle-related Diseases

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～24CH
単位数	4.0単位
担当教員	吉田悦男

授業の概要

生活習慣病の概念、成因、発症機序、症状、治療法について理解する。さらに危険因子の関連機序を検討し、生活習慣病の発症予防、進行抑制の可能性について理解を深め、研究方法などを学ぶことを目的とする。

到達目標

生活習慣病の発症機序、危険因子に関して幅広い知識を身につけ他者に詳しく説明できる。

評価方法

書物、文献を検索し、レポートを提出し、最後に口頭試問を行い理解の程度を判定する。
レポート 60点、口頭試問 40点とする。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

自ら資料を探し出す能力も高めてもらいたい。レポートに引用した文献は必ず明示すること。インターネットでの情報はその信憑性を十分に吟味し、安易に引用しないこと。

授業計画

- 1.生活習慣病
- 2.メタボリックシンドローム
- 3.生活習慣病の危険因子と対策
- 4.運動、食餌療法による発症抑制
- 5.健康診断基準値の適否

上記項目に関する課題を前期に1つ、後期に1つ提示するので、それに応じてレポート（4000字以上）を作成する。これらはその時々の最新トピックスに応じて変遷するので固定されたものではない。

授業外学習

生活習慣病について学術雑誌やニュースから常に最新の知見や研究動向を把握したうえで、指定された課題についての2つのレポートを作成する。随時メールでの質疑応答を行う。

教科書

特に指定しない。

参考書

必要に応じて提示する。

備考

救急・災害医療特論 (HCH81)

通年

Special Lecture on Emergency and Disaster Medicine

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～24CH
単位数	4.0単位
担当教員	大川元久

授業の概要

救急・災害医療において、病院前救急医療分野という立場でその医学的教育や救急・災害医療体制を医療危機管理学的視点で科学的根拠に基づいて実践していくための研究をテーマとして教育・指導していく。対象は医師、看護師、救急救命士等の救急医療に携わる者とする。個別指導研究(20項目)において研究の仮説の立て方から研究デザインを考案し、具体的な論文作成方法の基本を学ぶ。また研究の基礎となる統計分析法の理解と実践にその習得に重きを置く。特にインストラクショナルデザインを基とした医療教授法を身に着ける。特に、その研究テーマを選定した動機・研究対象の背景・現在の課題を明確にします。このレポートから学習者の到達目標と現状とのギャップを埋めるために必要な項目・技術についてスクーリングを実施していきます。

到達目標

救急・災害医学をチーム医療を行うスタッフの一員として、

1. 学術的プレゼンテーションの技術を学ぶ。
2. 科学的な学問としての教え方を身に着ける。

評価方法

研究発表成果もしくは論文(60%; 到達目標1)、レポート(20%; 到達目標1,2)、口頭試問(20%; 到達目標2)

注意事項

研究発表は当該学会発表もしくは論文完成に重きをおいて評価する。

授業計画

救急・災害医療を教育学に共通する要素を研究対象とする医療教育学の視点から、救急・災害医療について研究する。教科書「上手な教え方の教科書～入門インストラクショナルデザイン」からアウトラインとして学習項目をレポート課題(2課題 各2000字以上)として提出する。

なお、レポート作成にあたっては、教科書の対象となる章を選び、提示参考書を活用して

- (1) テーマが研究されるようになった背景・意義、
- (2) 選択したテーマと医療現場との関連、
- (3) 今後の課題

の観点を踏まえて考察を加えること。

『スクーリング時における指導内容』

受講者からの要約レポート・質問をつき合わせて討議することによって、多様な視点から内容に関する理解を深める。また、スクーリング以降の学習の基礎となる知見について講義を行う。

授業外学習

1. 自ら計画を立て救急医療系の標準教育プログラムであるBLS、ACLS(ICLS)、PALS/ISLS、JPTEC/JATEC等に積極的に参加する。
2. 上記標準教育プログラムに参加したのちに内容をまとめるように努める。
3. 各種災害訓練やメディカル・ラリーに参加する。
4. 全国レベルの学会・研究会に積極的に参加してもらう(参加費自己負担)。

教科書

上手な教え方の教科書～入門インストラクショナルデザイン 向後千春 技術評論社 ISBN: 978-4774174617

参考書

インストラクショナルデザインとテクノロジー: 教える技術の動向と課題 鈴木 克明 (監修, 翻訳) 北大路書房(2013/9/28)ISBN:978-4762828188

あなたのプレゼン誰も聞いてませんよ!—シンプルに伝える魔法のテクニック 渡部欣忍著 南江堂 (2014/4/1)ISBN:978-4-524-26127-7

その他、授業中に紹介する。

備考

環境と健康生活特論 (HCH82)

通年

Special Lecture on Environment and Healthy Life

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～24 CH
単位数	4.0単位
担当教員	湯川尚一郎

授業の概要

人間と動物の健康生活は、自然環境（空気、水、土壌等）や生活環境（水道、生活污水、ごみ、人間と動物の食生活等）および社会環境と大きく関わっている。すなわち、健康の成り立ちを生活レベルから多要因的に理解し、人間と動物の両方に関する健康生活のために考え、行動することができるように、考え方や知識を修得する。とくに重視する事項は健康事象の疫学的理解・人間と環境の相互作用の理解ならびに人間と動物が共生する衣食住の重要性の理解である。

【フィードバック】小テスト等の課題に対する講評を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】本授業では、Google Classroomを活用して双方向型授業を展開する。

到達目標

1. 健康の成り立ちを生活レベルから多要因的に理解し、人間と動物の健康生活のために考え、行動することができるように、考え方や知識および技術を理解し説明できるようになる。

評価方法

レポートの提出状況と内容70%（到達目標1を評価）と口頭試問の内容30%（到達目標1を評価）で評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

レポート作成にあたって、先行研究を十分把握した上で取り掛かること。課題で示された内容に答えるだけでなく、最新のニュースとの関連を含め自らの考え・見解・感想を含めること。

質問事項があれば、メール等で問い合わせること。

授業計画

【授業計画】

【レポート課題I】

人医療でのインシデント・アクシデントについての論文を3報以上挙げ概説したのち、具体的な対策と提言を4000字以上にまとめなさい。

<参考資料>

NLM(米国国立医学図書館:National Library of Medicine)内の、NCBI(国立生物科学情報センター:National Center for Biotechnology Information)が作成しているデータベースPubMedにアクセスし、必要な文献を調べる。必要に応じ、Google Scholarを用い論文検索を行うこと。

【レポート課題II】

医療・教育に関するイラストの効果についての論文を5報以上挙げ概説したのち、効果向上に関する具体的な提言を4000字以上にまとめなさい。

<参考資料>

NLM(米国国立医学図書館:National Library of Medicine)内の、NCBI(国立生物科学情報センター:National Center for Biotechnology Information)が作成しているデータベースPubMedにアクセスし、必要な文献を調べる。必要に応じ、Google Scholarを用い論文検索を行うこと。

授業外学習

過去の文献を探し、読むことで学びの内容を深めるようにすること。

教科書

特になし

参考書

環境白書2019（環境省）、国民衛生の動向2019/2020（厚生労働統計協会）

その他、必要に応じ紹介する

備考

特になし

動物臨床生化学特論 (HCH83)

通年

Special Lecture on Animal Clinical Biochemistry

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～24CH
単位数	4.0単位
担当教員	武光浩史

授業の概要

生命活動の基本は遺伝子発現とタンパクへの翻訳で行われている。この講義では小動物の様々な疾病の診断と治療を分子生物学的なアプローチで解析、研究を行うのに必要な知識を習得する。

到達目標

分子生物学の基礎と遺伝子とタンパクに関する実験手法の概要を理解する。

評価方法

授業計画に示したレポートの提出を求め、評価はプレゼンテーション80%、質疑応答20%の重みで判定する。

注意事項

原則として課題提出の期限は厳守とする。

授業計画

レポート課題1

遺伝子に関する研究の実験を説明し、PCR法、遺伝子組み換え、遺伝子シーケンシング法、次世代シーケンサーの原理と応用について4000字以上にまとめなさい。

参考資料

- ・「イラストेटドハーバー生化学」丸善出版 ISBN:4621300970
- ・田村隆明「基礎から学ぶ遺伝子工学」羊土社 ISBN:4758120838

レポート課題2

タンパク質の発現解析に関する実験の概要を説明し、ウェスタンブロット法、ELISA法、フローサイトメトリー法の原理と応用について4000字以上にまとめなさい。

参考資料

- ・「イラストेटドハーバー生化学」丸善出版 ISBN:4621300970
- ・田村隆明「基礎から学ぶ遺伝子工学」羊土社 ISBN:4758120838

授業外学習

公開されている論文を読み、用いられている実験手法を中心に各自でまとめる。

教科書

特になし

参考書

上記以外の参考書、参考文献については、それぞれ関心のある分野に応じて、相談の上、適宜紹介する。

備考

年次	1年
対象	24～24CH
単位数	4.0単位
担当教員	村尾信義

授業の概要

愛玩動物看護師法は令和4年5月1日から施行されることになっている。

愛玩動物看護師は、獣医療分野の「診療の補助」に加えて、「愛護及び適正飼養」分野の役割を担うこととなる。

さらに自然環境保全分野等への役割に対する期待も高い。

この講義では、今後の動物看護師に求められる動物愛護管理行政分野や自然環境保全分野等での役割について学習する。

到達目標

1. 動物看護の成り立ちを振り返り、様々な状況下における動物や人間に対するサポートについて理解する。
2. 動物のストレス評価に用いる生理学・行動学について説明できる。
3. 動物のストレスを軽減できる保定技術について説明できる。

評価方法

課題レポートとスクーリング時の質疑応答により評価する。

評価は、レポート70%（到達目標1、2、3を評価）、質疑応答30%（到達目標1、2、3を評価）の重みで判定する。

注意事項

レポートは、最新の情報との関連を含め、自らの考え、見解などを含めること。

質問等があれば、メール等で問い合わせ、相談すること。

授業計画

【レポート課題1】

災害発生時の被災動物の適正飼養やその飼い主である被災者への対応について、国内または海外における災害とペットに関する事例を調べ、愛玩動物看護師の役割について4000字以上にまとめなさい。

<参考資料>

環境省HP「災害時におけるペットの救護対策ガイドライン」

Wildlife Health Australia HP; Bush Emergency – Information and Resources for Veterinarians, Vet Nurses, Registered Carers and the Community

【レポート課題2】

動物看護師の職務における動物の保定について、国内外の獣医療・動物看護の発展の歴史や、動物の福祉、動物のストレスを評価する生理学や行動学などの指標等を用いて4000字以上にまとめなさい。

<参考資料>

村尾信義、谷田創. 2018.スワブによる小型犬の唾液採取技術の検証. *Animal Behaviour and Management*, 54(2), 59-67.

村尾信義、谷田創. 2018.動物看護師の日常業務における動物の保定技術に関する質問紙調査 -保定時における動物看護師の安全対策について-. *Veterinary Nursing*, 23(2), 7-13.

今道友則. 2013. 動物看護学 総論（動物看護概論「②獣医学・動物看護学の歴史」：第1章）. 改訂新版. pp6-11, 日本動物看護学会, 東京.

小佐々 学著, 池本卯典, 吉川泰弘, 伊藤伸彦監. 2013. 獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 獣医学概論（獣医学：第2章）. pp28-57, インターズー, 東京.

Orpet H, Welsh P. 2013. 動物看護実践ハンドブック. 桜井富士朗 監訳. インターズー, 東京.

授業外学習

図書や資料のみならず、遠隔のツール等を介して調べたりすることで学びを深める。

公開されている論文（英語含む）を探し、熟読すること

教科書

特に指定しない。

参考書

上記以外の参考書、参考文献については適宜紹介する。

備考

動物看護学演習 (HCH85)

通年

Animal Nursing Exercise

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	24～24CH
単位数	2.0単位
担当教員	村尾信義

授業の概要

言語をもたない動物の看護と保定の研究においては、動物のストレスに関与する行動学と生理学による評価が必須となる。また、その動物を診療・保定する人間の心理も重要となる。この講義では、動物のストレスを把握するための研究手法、行動観察の実施とデータ分析、検体の採取及び測定の方法、人の心理調査の手法などを学び、動物のストレスを軽減できる診療時の動物看護・保定技術の知識を修得する。

到達目標

動物のストレス評価に用いられる生理学・行動学に関する最近の諸トピックスを、理論的背景も含めて正確に理解する。

評価方法

課題レポートおよびスクーリング時における質疑応答により評価する。

評価は、到達目標に沿って、質疑応答20%、レポート80%の重みで判定する。

注意事項

- ・進捗状況の報告を怠らないこと。
- ・主観的なデータではなく、根拠に基づく客観的なデータを引用すること。

授業計画

【レポート課題】

1. 以下の参考ジャーナルから、犬のストレス評価に用いられる生理学・行動学に関する2010年以降の論文を選び、要約して自らの知見と合わせて2000字以上にまとめなさい。

<参考ジャーナル>

- ・ Applied Animal Behaviour Science
- ・ Journal of Veterinary Behavior

2. 以下の参考ジャーナルから、犬や猫の看護に関する2010年以降の論文を選び、要約して自らの知見と合わせて2000字以上にまとめなさい。

<参考ジャーナル>

- ・ Veterinary Nursing Journal
 - ・ Journal of Clinical Veterinary Nursing
- (例: Vol.25, No.4 & #12316; Vol.26, No.3)

【スクーリング時における指導内容】

各受講者からの要約レポート・質問をつき合わせて討議することによって、多様な視点から内容に関する理解を深める。また、スクーリング以降の学習の基礎となる知見について講義を行う。

授業外学習

引用されている文献にあたり、研究の理論的背景、研究法、今後の課題を理解する。

教科書

特に指定しない。

参考書

上記以外の参考書、参考文献については適宜紹介する。

備考